

2018年 事業説明会（ペイメント事業）

2018年12月10日
代表取締役副社長執行役員
山口 重樹

自己紹介



山口 重樹

■ 業務経歴

1984年4月 **NTTデータ入社**

- 科学技術計算の共同利用型システムのミドルソフトウェアの開発に従事
- 流通業のシステム開発等のプロジェクトリーダー

2010年7月 **法人コンサルティング&マーケティング本部長**

- NTTデータのコンサルティングファームのクニエの前身、NTTデータビジネスコンサルティングの設立に従事、常務取締役兼務

2013年1月 **株式会社JSOLの代表取締役専務**

- SAPビジネスの展開等に従事

2013年6月 **執行役員 コンサルティング&マーケティング本部長**

- コンサルティングビジネスとERP (Bizf) ビジネスを担当

2014年6月 **執行役員 第三法人事業本部長**

2016年6月 **常務執行役員 ITサービス・ペイメント事業本部長**

- ペイメント、流通業、サービス業を担当

2017年6月 **取締役常務執行役員 法人ソリューション分野担当、中国・APAC分野担当**

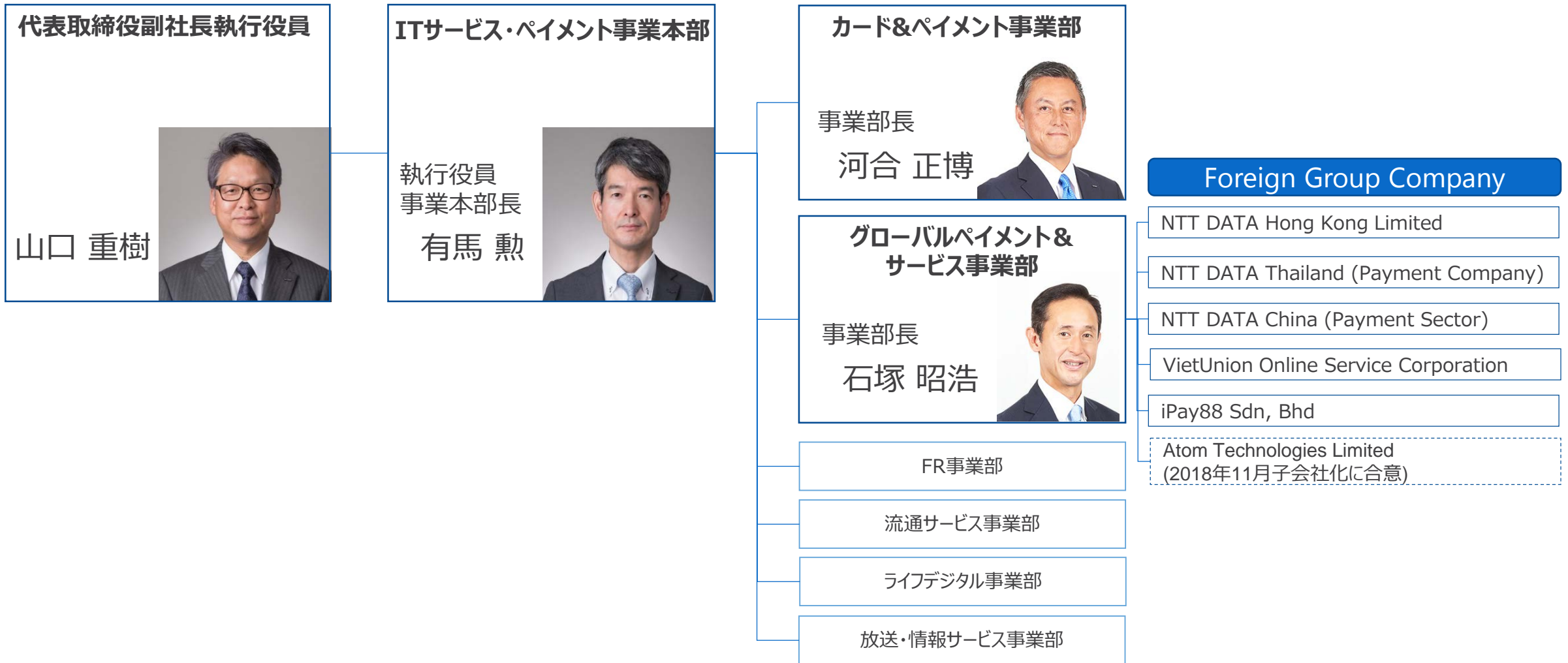
2018年6月 **代表取締役副社長執行役員**

■ 得意領域

デジタルコマース、ペイメント、コンサルティング

組織構成

- 法人・ソリューション分野、ITサービス・ペイメント事業本部において、日本の決済インフラ（CAFIS）、アジアを中心としたグローバルのペイメント事業のサービスを提供しています。



1. 国内ペイメント事業
 - 1.1 日本における決済の現状
 - 1.2 代表的な決済手段の決済スキーム
 - 1.3 CAFISが提供する基本サービス
 - 1.4 決済市場の変化
 - 1.5 成長戦略と取り組み事例
2. グローバルペイメント事業
 - 2.1 事業概要説明
 - 2.2 成長戦略と取り組み事例

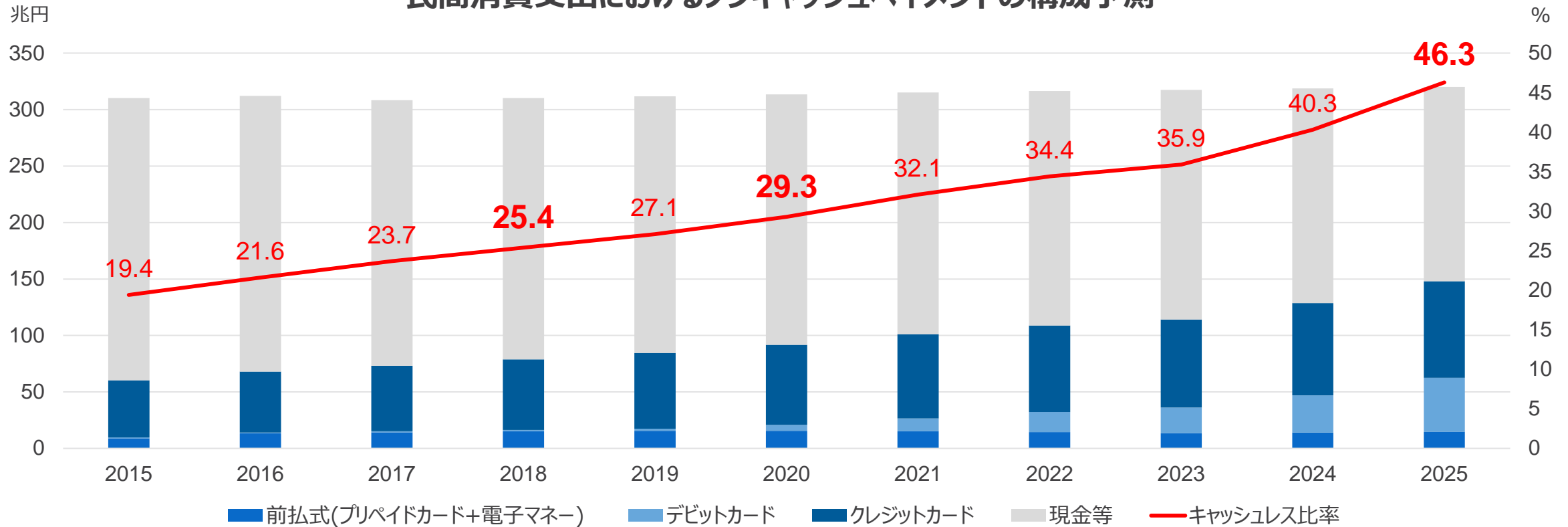
1. 国内ペイメント事業

1.1 日本における決済の現状

決済手段の構成予測

- 国内の民間消費支出は300兆円強で横這い傾向にあるものの、ノンキャッシュ決済比率は上昇する見込みです。
- 現在の成行ベースでも2020年に30%弱、2025年に45%強に到達する見立てとなっています。

民間消費支出におけるノンキャッシュペイメントの構成予測

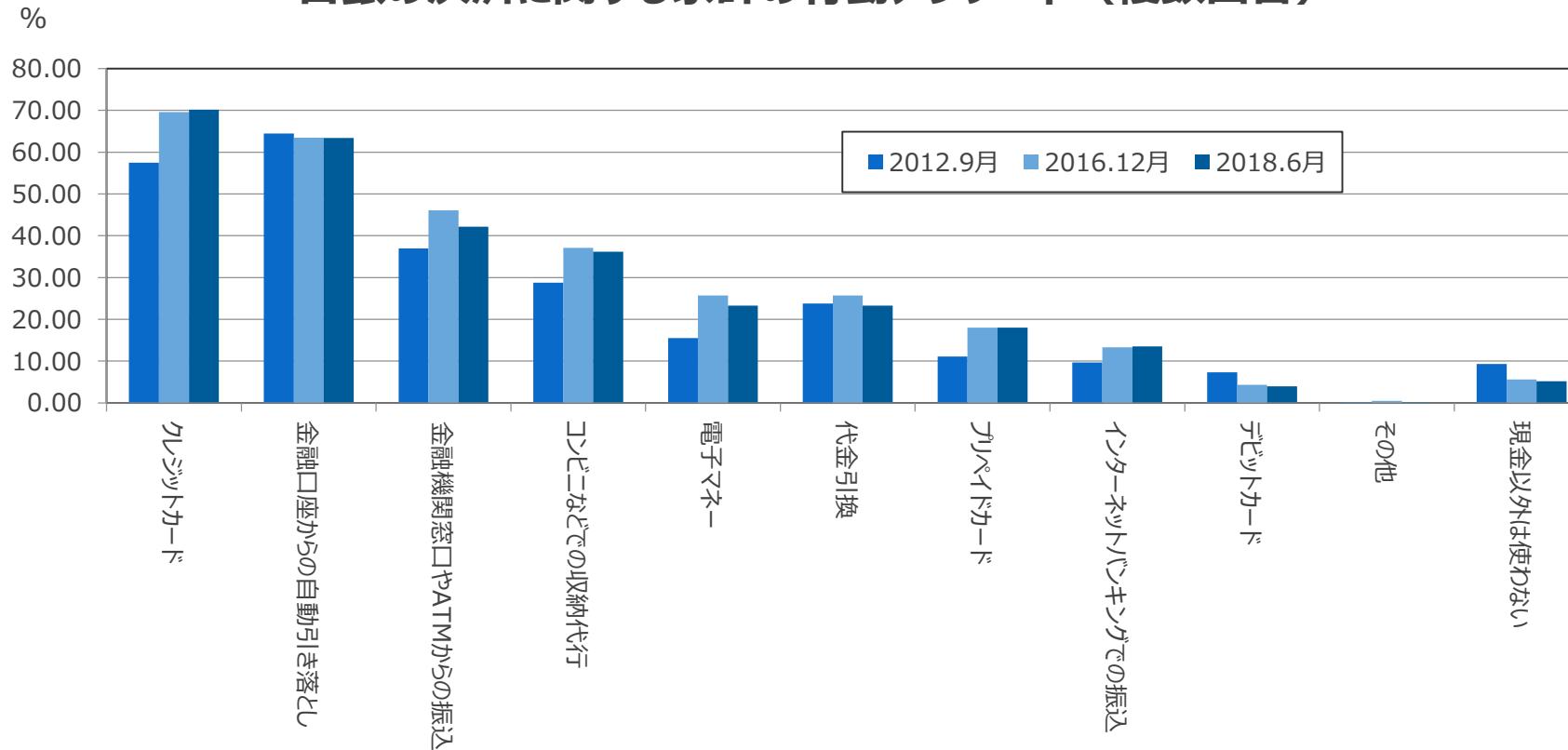


出典：民間最終消費支出(2015年～2027年)『経済産業省委託調査「マクロ経済モデルによる中長期の経済成長予測に関する調査研究」(2015年3月)』、キャッシュレス決済手段(2015年～2023年)『野村総合研究所「ITナビゲーター2018年版」中の「図表6.1-2 スマートペイメント市場予測」(P219)』、キャッシュレス決済手段(2024年～2025年)『野村総合研究所の推計値』における2015年～2023年の推計値について、年平均成長率(CAGR)を算出し、当該成長率を基にNTTデータ経営研究所にて算出

個人における決済手段の選択

- 観測点が2012年、2016年、2018年と不連続ですが、2012年からの傾向は明確であり、クレジットカード、コンビニ収納、電子マネー、プリペイドカードなどが伸張、10%程度いた現金主義の消費者は5%程度まで減少しています。

日銀の決済に関する家計の行動アンケート（複数回答）

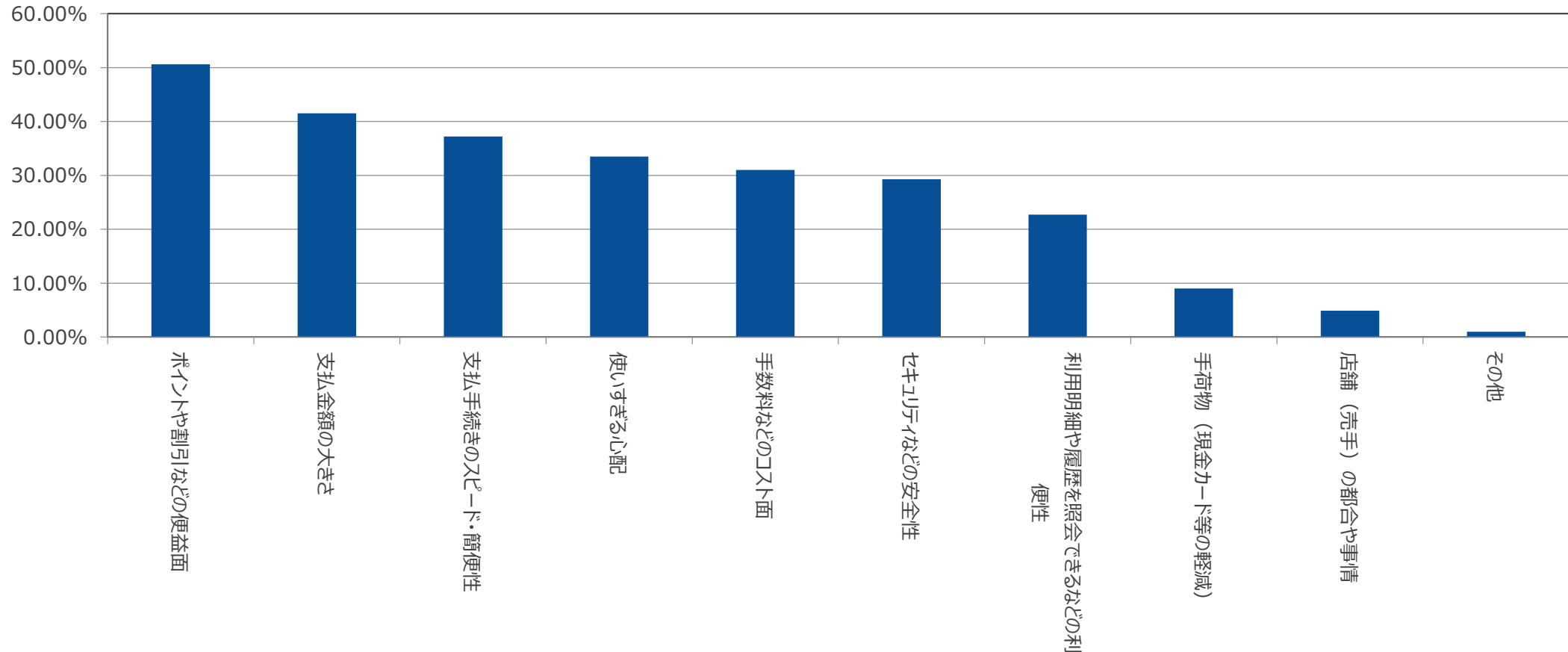


出典：日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」

決済手段選択の際に重視していること

- ポイントや割引などの便益面が最も重視されています。
- 加えて、支払金額の大きさなどにより決済手段を使い分けていることがわかります。

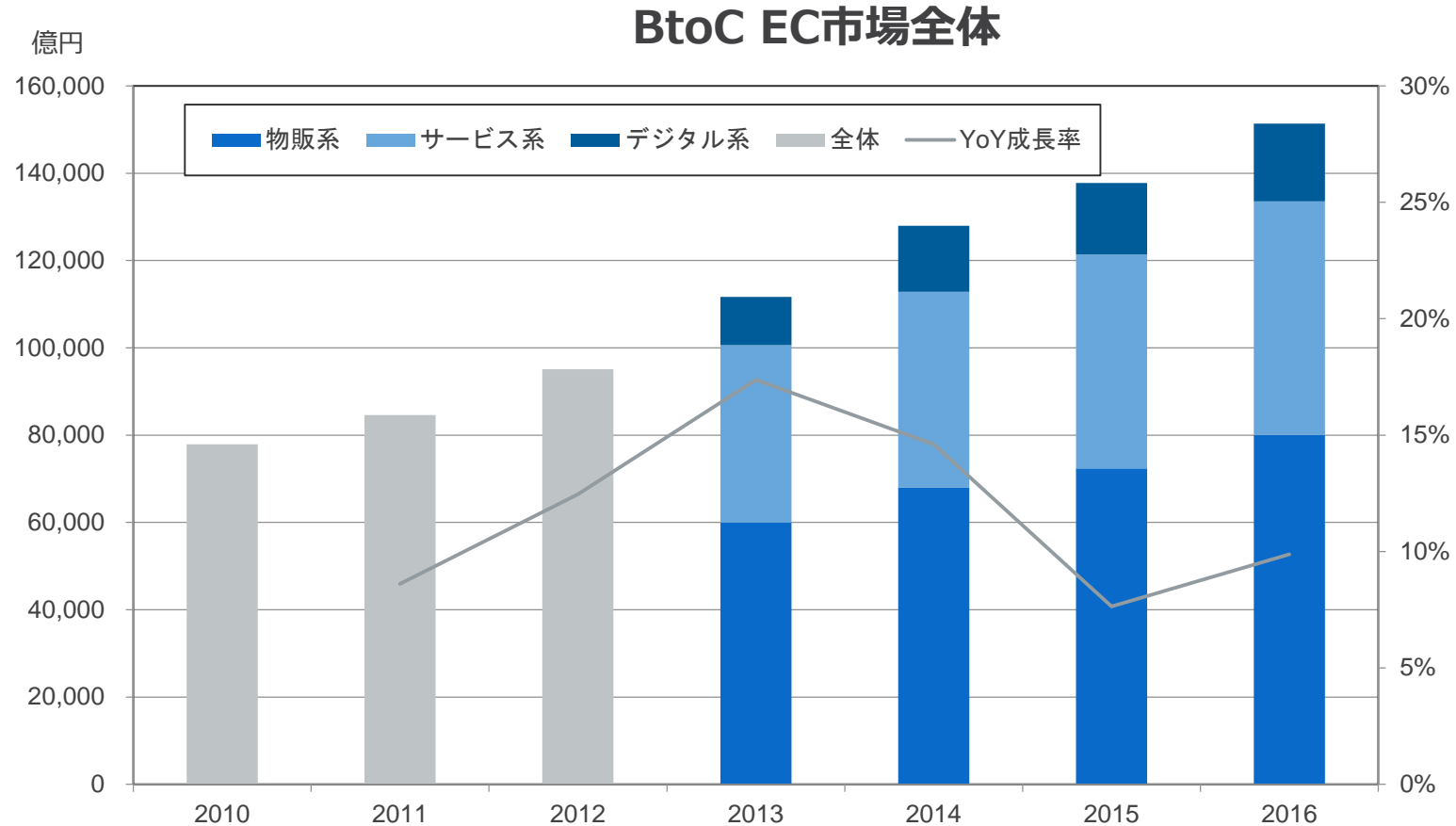
決済手段を選択する際に重視していること（複数回答）



出展：日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」

EC化への傾向

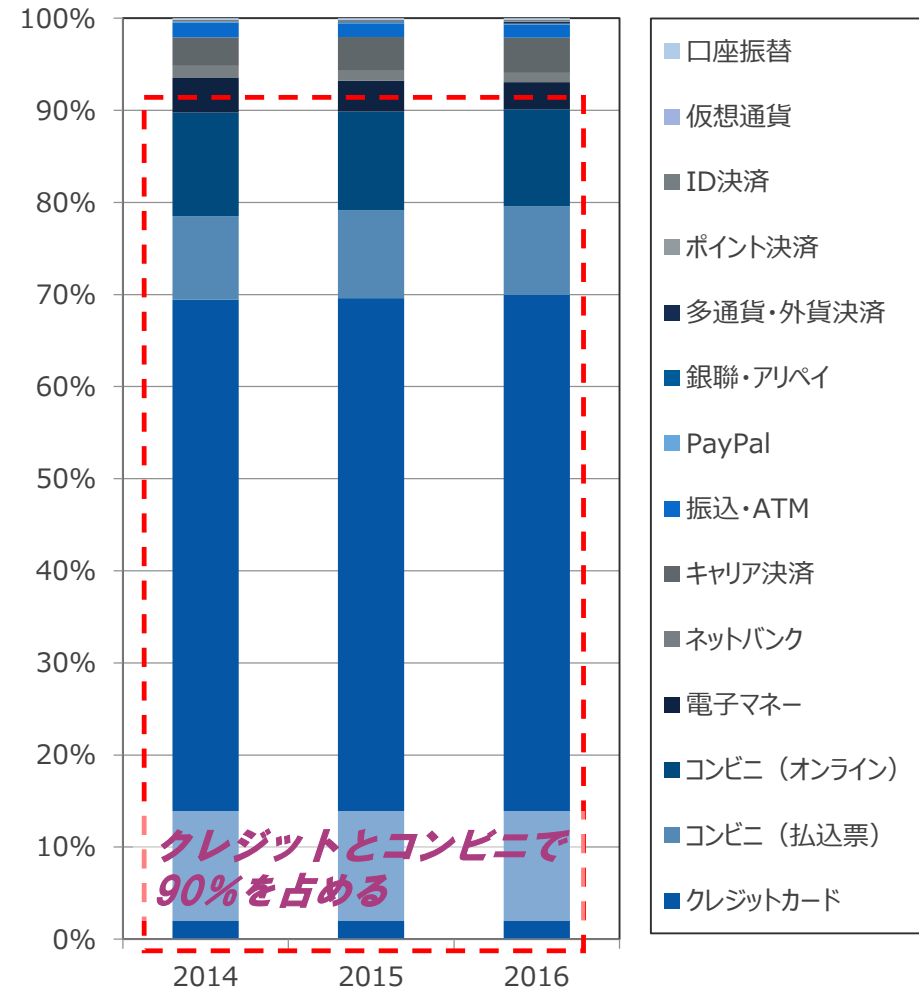
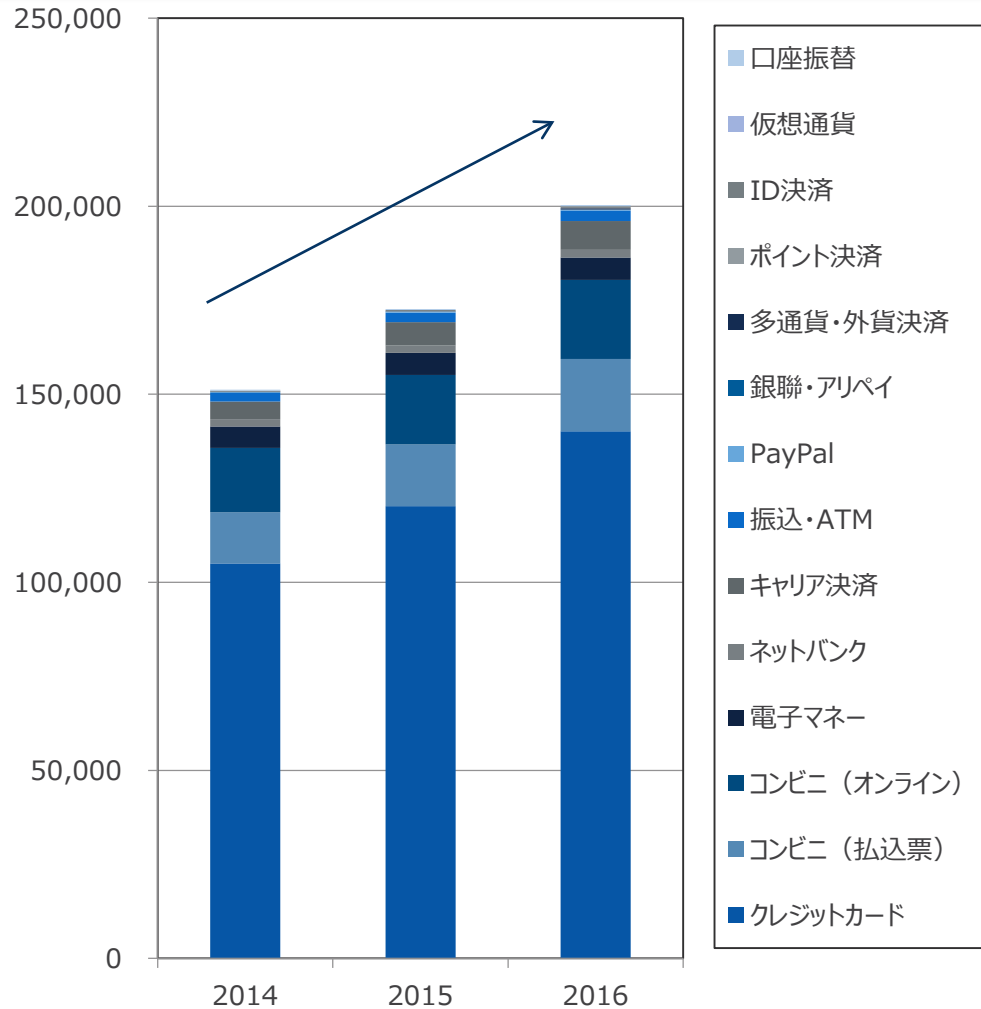
- EC市場は継続的な成長を行っており2015年度に成長率が落ち込んだものの、2016年度は再び伸び率が上昇しています。



出典：我が国経済社会の情報化・サービス化に係る基盤整備／経済産業省

ECにおける決済手段

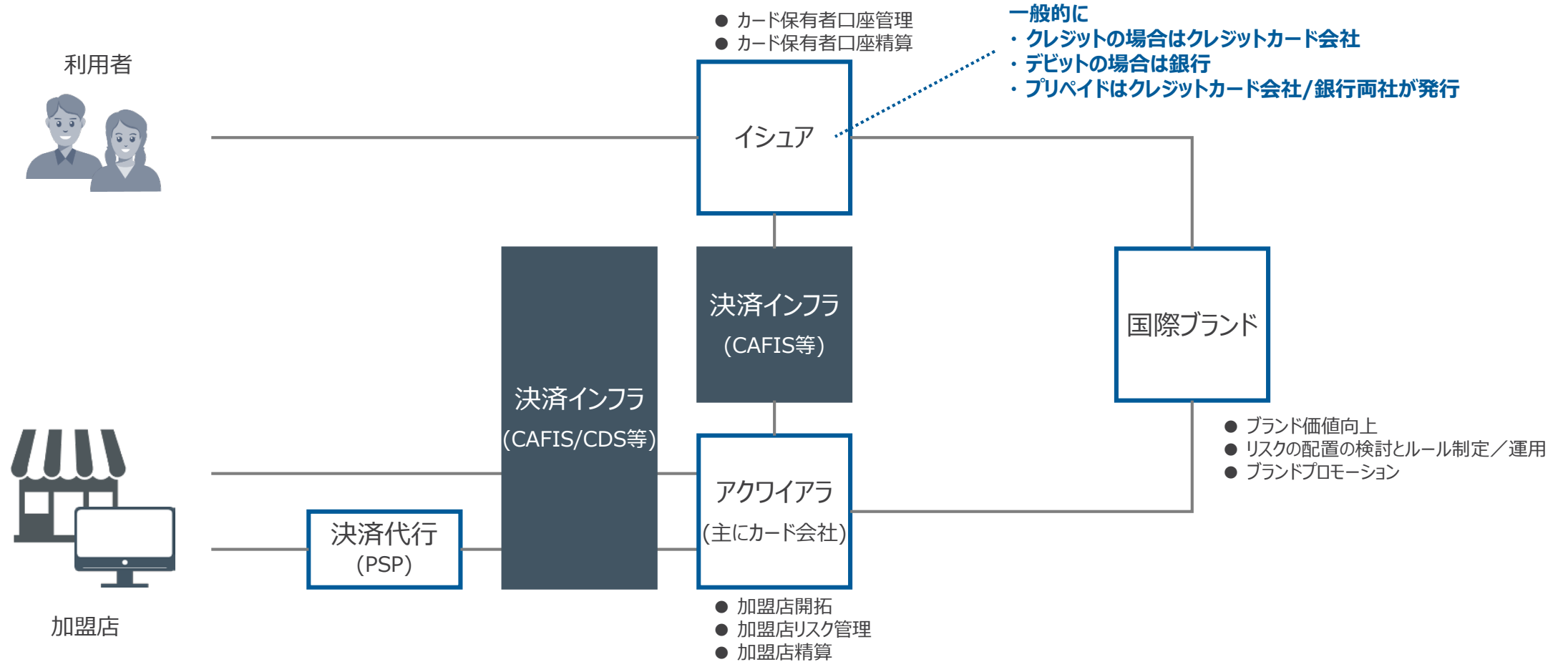
- ECにおける支払手段の70%はクレジットカード、残りの30%中20%がコンビニエンスストアでの支払となっているおり、そのポジションは変化していません。



1.2 代表的な決済手段の決済スキーム

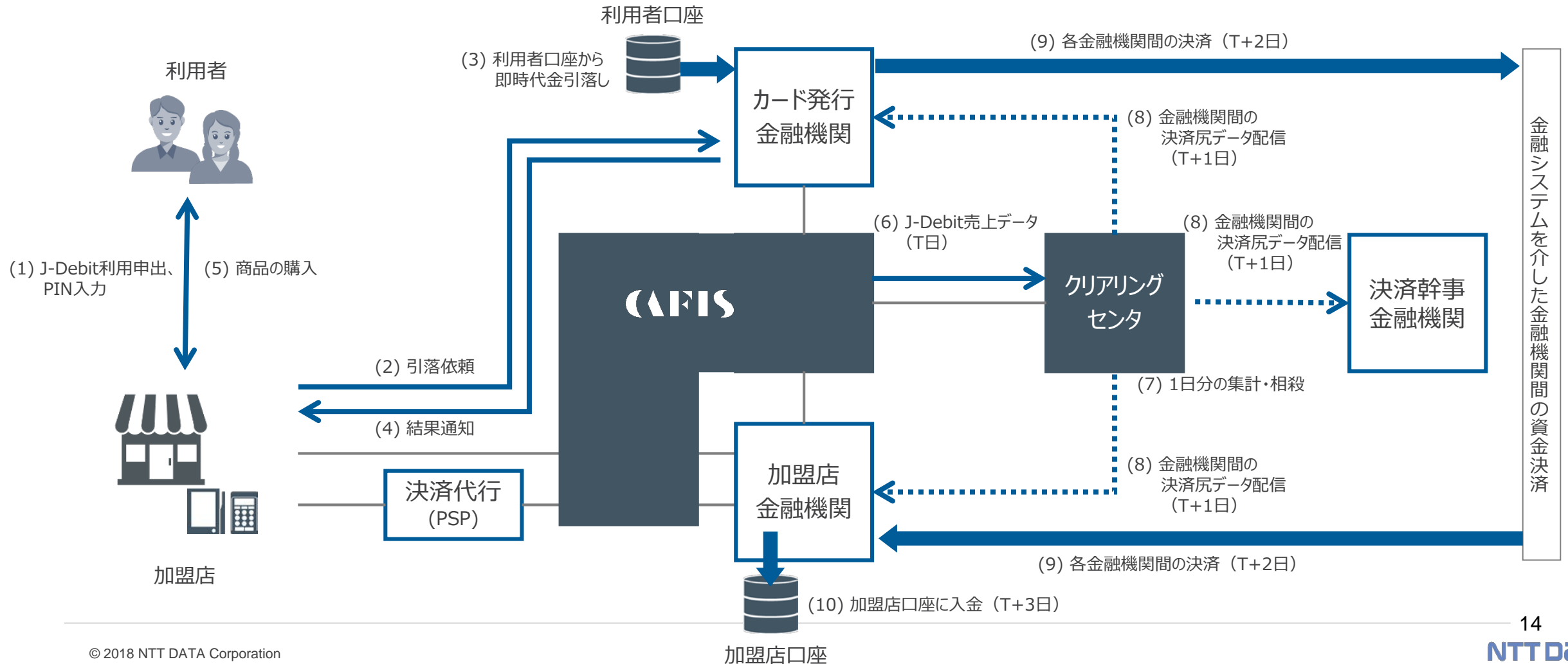
クレジットカードの決済スキーム

- 国際ブランド発行のクレジットカードの主要プレーヤは、国際ブランド、イシュア、アクワイアラ、加盟店です。
- クレジットカードの取引データ（オーソリデータ、売上データ）を処理する決済インフラとして、当社が提供するCAFISやCDSなどのサービスが利用されています。



J-Debitの決済スキーム

- J-Debitに加盟している金融機関様が発行するキャッシュカードで支払いできるサービスです。
- 本サービスでは銀行間の精算（クリアリング）も当社が請け負ってサービス提供しています。



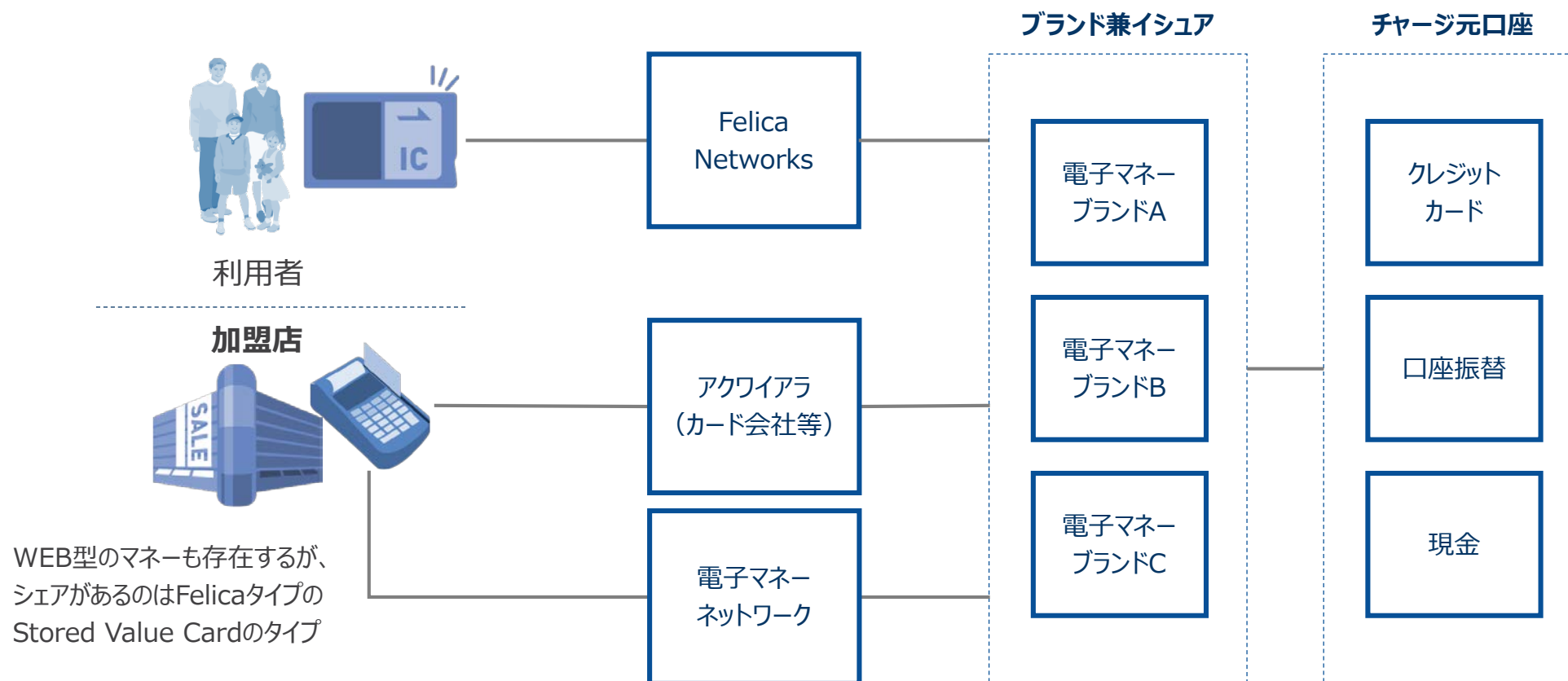
電子マネー（ICチップ型）のカテゴリ

- 日本における電子マネー（ICチップ型）は、4つの主要なカテゴリ（独立系ポストペイ、独立系プリペイド、交通系プリペイド、流通系プリペイド）が存在します。
- コミューターパスにおける携帯の必然性が高いことから電子マネーは浸透したと考えられます。

Service Category	電子マネー			
	ポストペイ（後払い）	プリペイド（前払い）		
Provider	独立系		交通系	流通系
Service	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #00a651; color: white; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">iD</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">QUICPay</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #00a651; color: white; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">Edy</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #00a651; color: white; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">Suica</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">PiTaPa</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">ICOCA</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">PASMO</div> <div style="margin-top: 5px;">etc /15 application</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #00a651; color: white; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">WAON</div> <div style="background-color: #00a651; color: white; border-radius: 10px; padding: 5px 15px; margin-bottom: 5px;">nanaco</div> </div>
Chip format	Felica (Type C)			
Index	Electronic money member 151 million (Edy,Suica,PASMO,ICOCA,nanaco,WAON,iD)			

電子マネーの決済スキーム

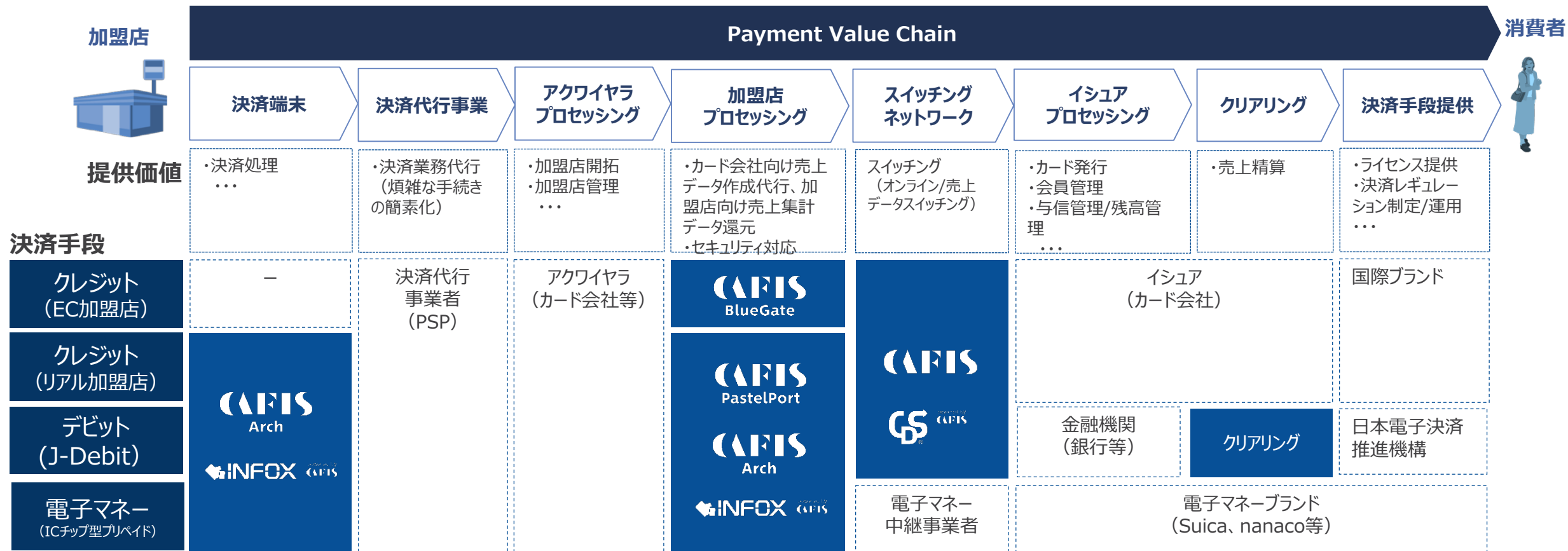
- アクワイアラは、クレジットカード決済と同様にカード会社が主要なプレーヤとなっています。
- 一方、イシューは利用者接点あるプレーヤが個別ブランドとして存在しています。（交通系、流通系、独立系に分類）
- チャージ元口座としては、クレジットカード、銀行決済、現金等が存在します。



1.3 CAFISが提供する基本サービス

ペイメント・バリューチェーン

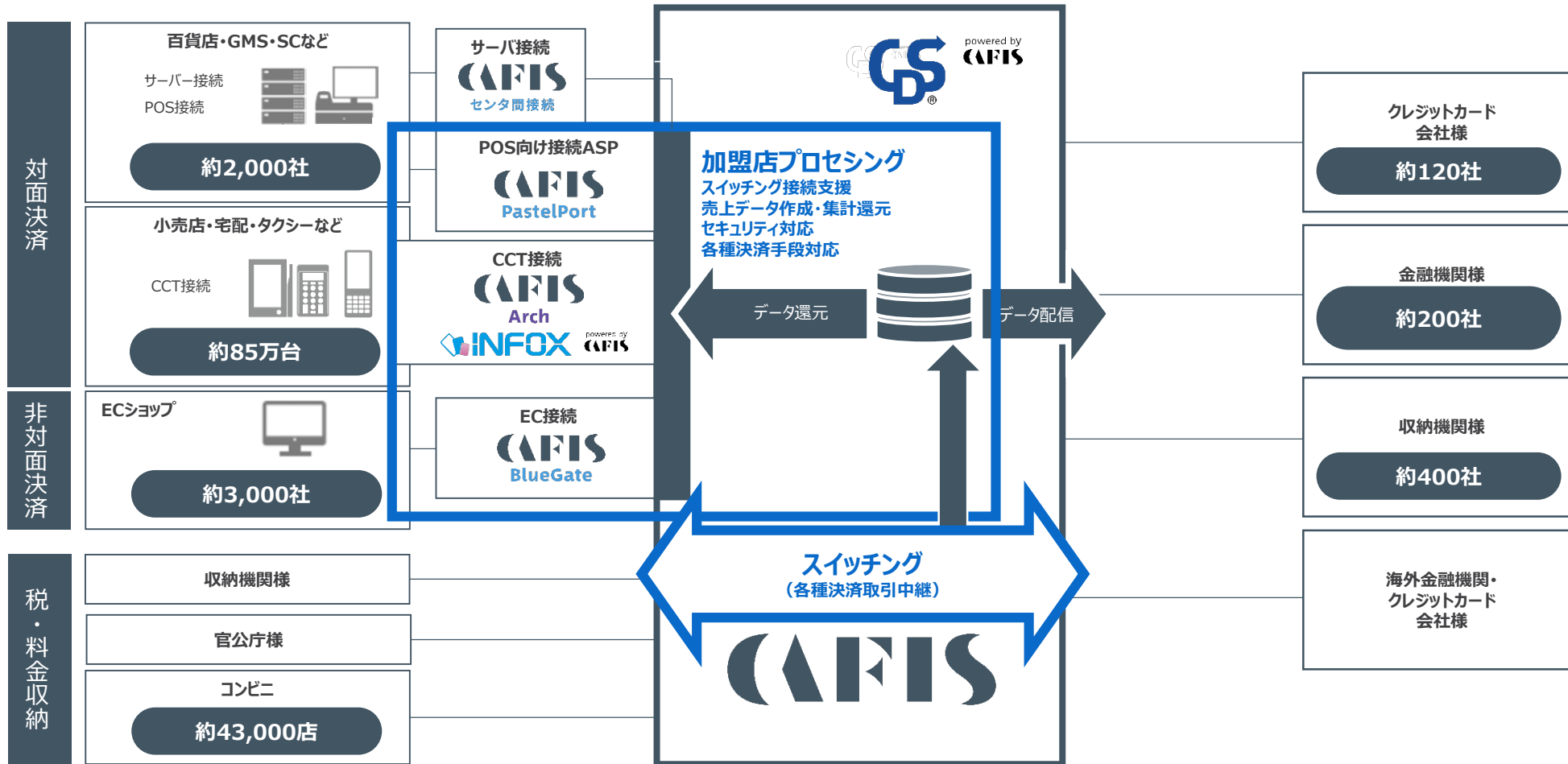
- ペイメントのバリューチェーンにおいて、NTT DATAは加盟店に設置する決済端末（INFOX/CAFIS Arch）の提供、および加盟店プロセッシングセンタ（CAFIS BlueGate、CAFIS PastelPort、INFOX、CAFIS Arch）、オーソリゼーション、売上データのスイッチングサービス（CAFIS/CDS）を主に提供しています。



凡例 当社がサービス提供する範囲

CAFISが提供する基本サービス

- CAFISに接続する全ての加盟店、カード会社/金融機関がCAFISのネットワーク価値を構成しており、加盟店市場カバーの広さ、ほぼ全てのカード会社/金融機関に接続していることがCAFISの強みです。
- また各種加盟店の形態に応じた加盟店プロセッシングサービスも提供しています。



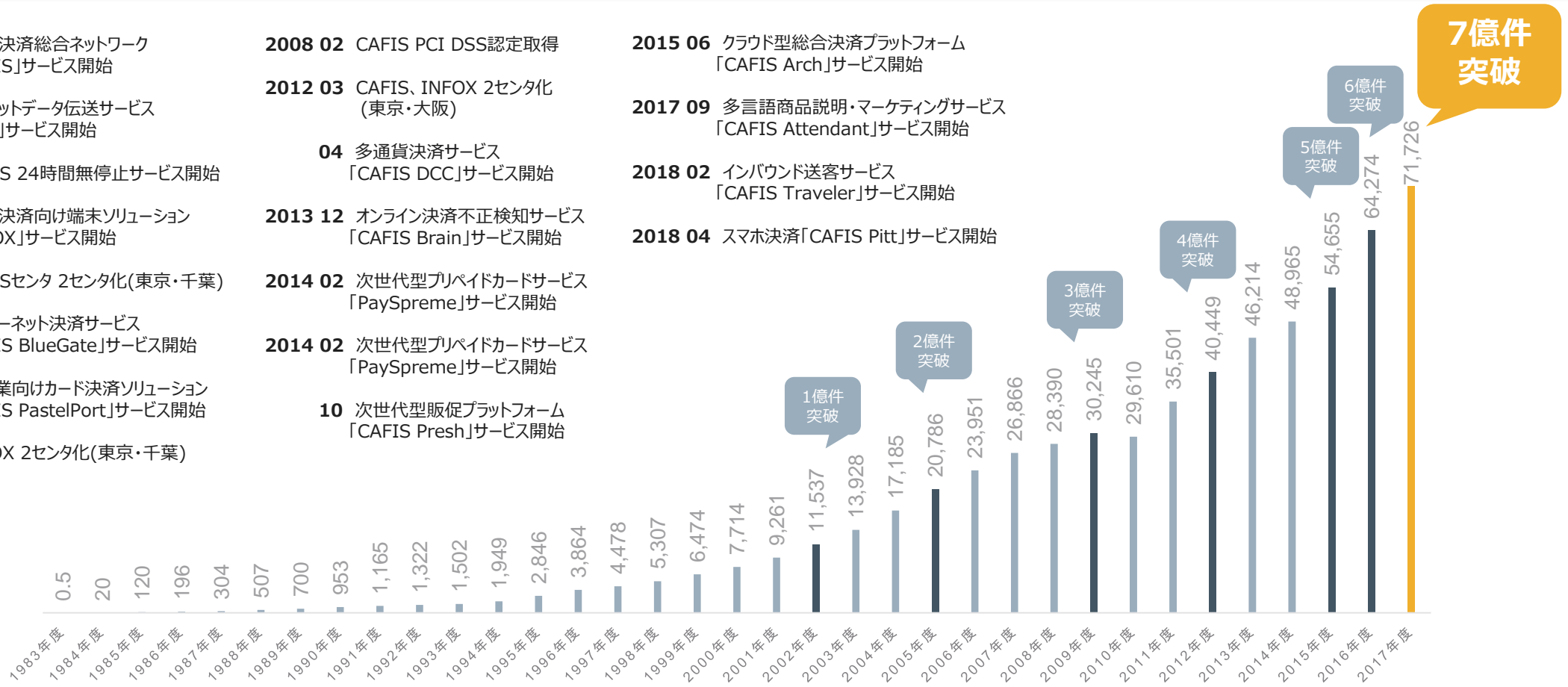
CAFISのトランザクション推移

- CAFISのトランザクションは2017年度実績では月間7億件に到達しています。
- キャッシュレス化に伴い、今後も継続的に伸張していくことを想定しています。

- 1984 02 カード決済総合ネットワーク「CAFIS」サービス開始
- 1992 06 クレジットデータ伝送サービス「CDS」サービス開始
- 1998 04 CAFIS 24時間無停止サービス開始
- 1999 07 カード決済向け端末ソリューション「INFOX」サービス開始
- 2000 10 CAFISセンタ 2センタ化(東京・千葉)
- 2002 09 インターネット決済サービス「CAFIS BlueGate」サービス開始
- 2004 04 小売業向けカード決済ソリューション「CAFIS PastelPort」サービス開始
- 2006 09 INFOX 2センタ化(東京・千葉)

- 2008 02 CAFIS PCI DSS認定取得
- 2012 03 CAFIS、INFOX 2センタ化(東京・大阪)
- 04 多通貨決済サービス「CAFIS DCC」サービス開始
- 2013 12 オンライン決済不正検知サービス「CAFIS Brain」サービス開始
- 2014 02 次世代型プリペイドカードサービス「PaySpreme」サービス開始
- 2014 02 次世代型プリペイドカードサービス「PaySpreme」サービス開始
- 10 次世代型販促プラットフォーム「CAFIS Presh」サービス開始

- 2015 06 クラウド型総合決済プラットフォーム「CAFIS Arch」サービス開始
- 2017 09 多言語商品説明・マーケティングサービス「CAFIS Attendant」サービス開始
- 2018 02 インバウンド送客サービス「CAFIS Traveler」サービス開始
- 2018 04 スマホ決済「CAFIS Pitt」サービス開始



CAFIS 月間処理件数^{※1}の推移 (単位：万件／各年度末(3月)実績)

※1 処理件数には、クレジット取引やCDキャッシング、入出金等のすべてのオンライン取引が含まれます。

1.4 決済市場の変化

決済市場の変化

- 決済市場は大きく変化しており、CAFISのビジネスに大きな影響（機会/脅威）を与えています。
- 次頁以降で具体的な影響についてご説明します。

① 決済手段の多様化

- QRコードを利用した〇〇ペイなど様々な決済プレーヤが台頭
- 既存決済手段のモバイルワレット化

Apple Pay

ALIPAY

楽天Pay

Google Pay

Wechat

LINE Pay



② 加盟店サイドの変化

- 加盟店を束ねる決済代行事業者（PSP）のニーズ増大
- 購買体験のデジタル化（購買履歴を元にしたレコメンド等）



③ 金融機関サイドの変化

- 金融機関のOpen-API化の傾向（更新系APIの提供）

④ セキュリティ対策の高度化

- クレジット不正利用の増加
- 国際ブランドレギュレーション、PCIDSSなどクレジット不正利用防止に向けた、国内外のセキュリティ規制の高度化（改正割賦販売法、3-D Secure2.0対応等）

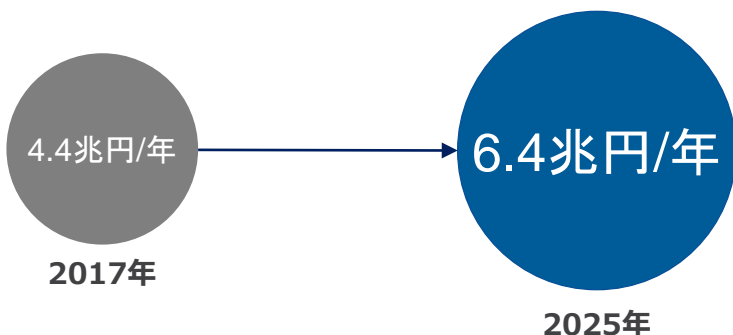
① 決済手段の多様化

QRコード決済市場

- インバウンド需要の伸びもあり、QRコード決済の日本国内の市場規模は2019年に6,000億円、2023年に8兆円程度になると推計されており、市場の成長が非常に期待されていると同時に、QRコード決済事業者が乱立している状況です。
- 中国QR（Alipay、WeChatPay）だけではなく、アジア地域及び国内のQR市場拡大も予想されます。

インバウンド市場

訪日観光客の消費金額



出典：(2017年)観光庁「訪日外国人の消費動向調査」、(2025年)みずほ銀行「みずほ産業調査」

国内QRコード市場

国内のQRコード決済市場予測(海外Pay含む)



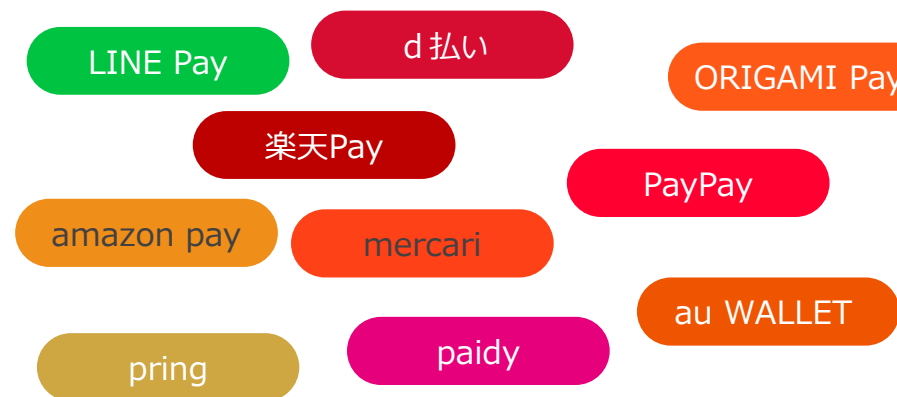
出典：日本能率協会総合研究所「MDB Digital Search 有望市場予測レポート」

コード決済事業者の乱立

海外Pay

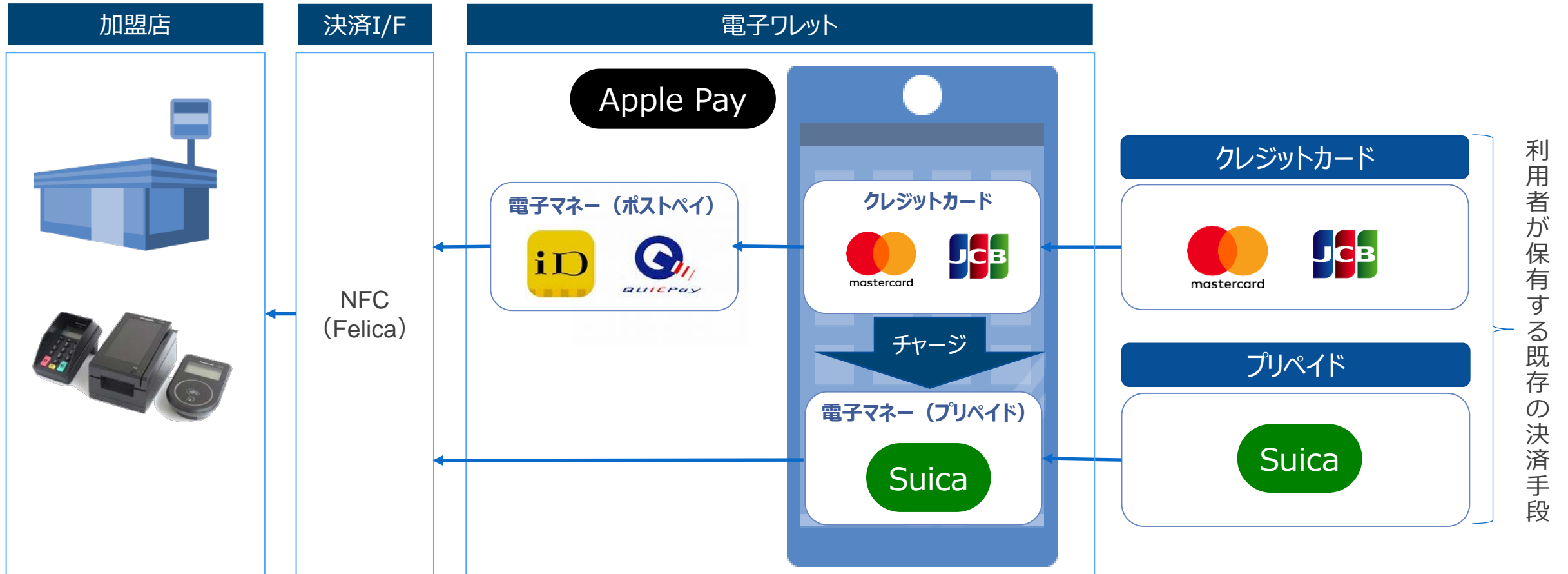


国内Pay



NFC決済の拡大

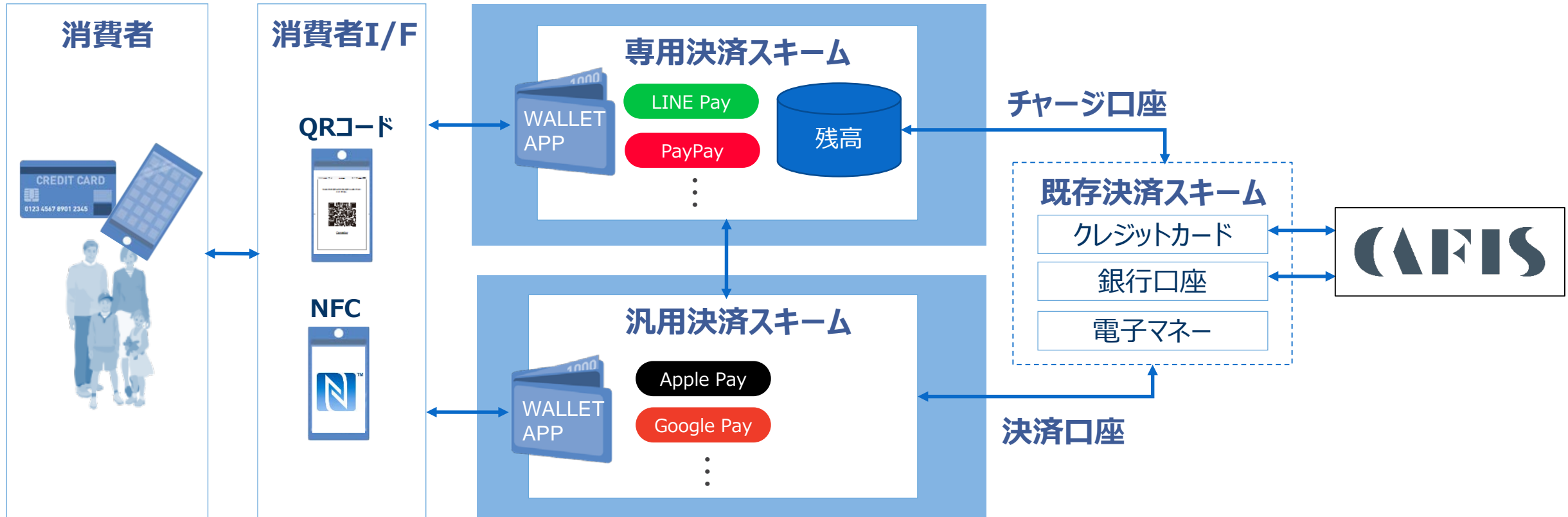
- QRコードの他にもNFC（国内はFelica）をインタフェースとした決済手段も拡大しています。
- 2016年10月からはApplePayの国内利用も可能となっています。
（既存の決済スキームを内包するスキームとなっています。）



注) NFC : Near Field Communicationの略。近距離無線通信。

消費者接点における電子ワレットの拡大

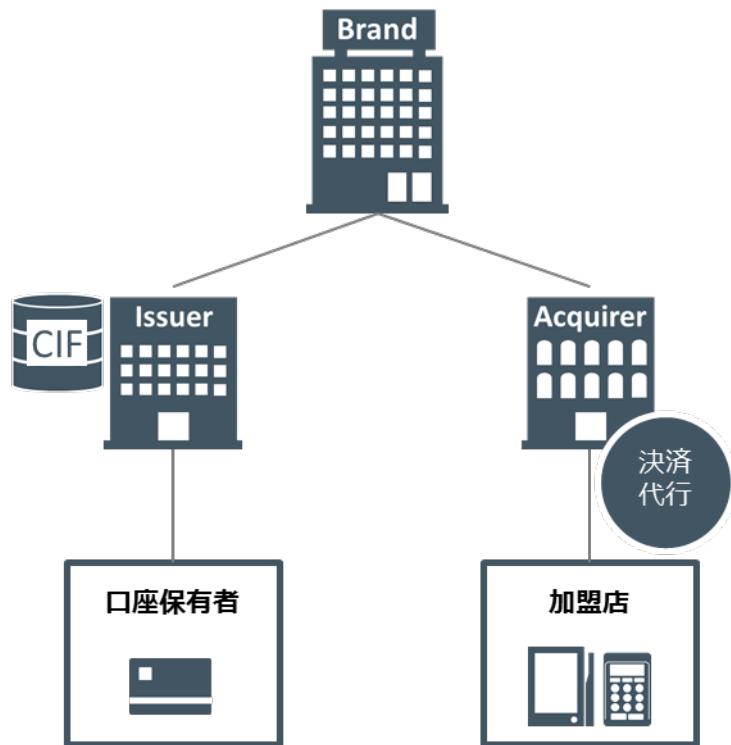
- 口座情報を格納、もしくは、IDなどを口座情報に紐つけるために、消費者接点のワレット化が進行しています。
 - 専用決済スキームを持つ電子ワレットでは、残高へのチャージ元口座として既存の決済スキームが使われます。
 - 既存の決済スキームを管理する電子ワレットでは、消費者I/Fは異なるものの決済スキームは既存のスキームと基本は同一です。
 - 消費者インタフェースとして、カードではなくモバイルのQRコード、NFCが使われる場合でも、チャージ元口座、決済口座として既存決済スキームが使われる場合は、CAFISの提供サービスを活かすことができます。



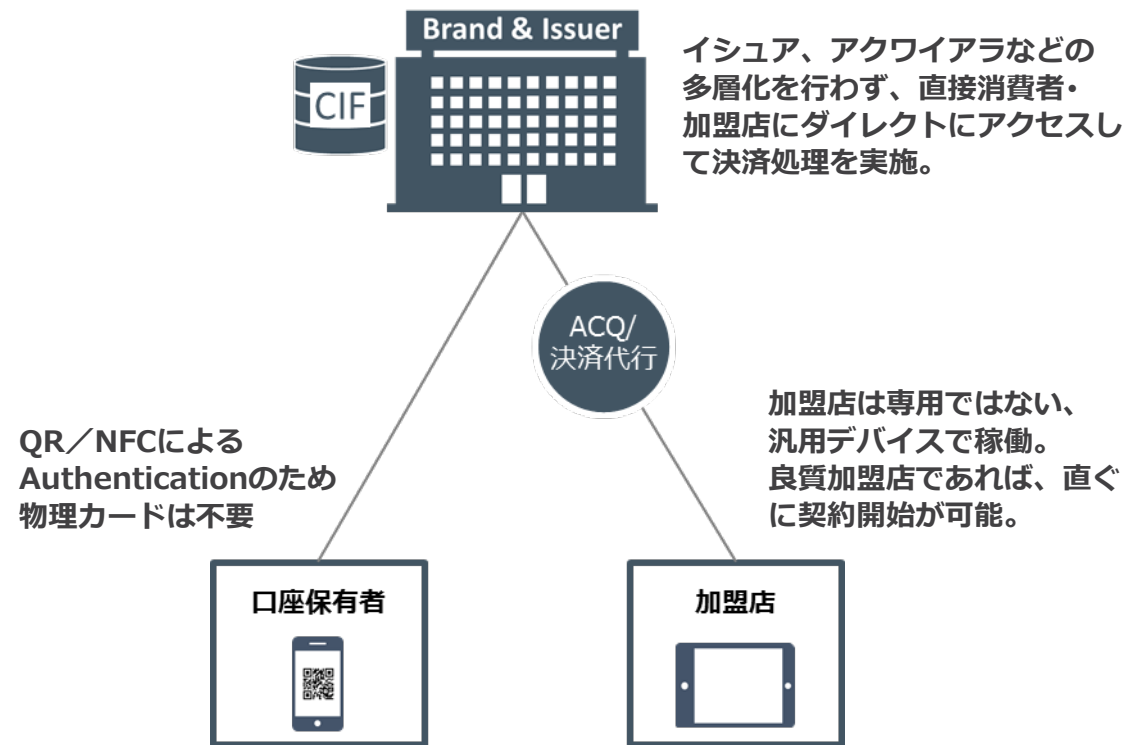
新たな決済手段の構造

- 新たな決済手段はクレジットカードの4Party Modelと異なり、決済プレーヤがブランド兼イシュアの立場となります。(3Party Model)
- ネットワーク環境の進化や、ビジネス階層の短縮化など、拡大する蓋然性を保有しています。

4 Party Model



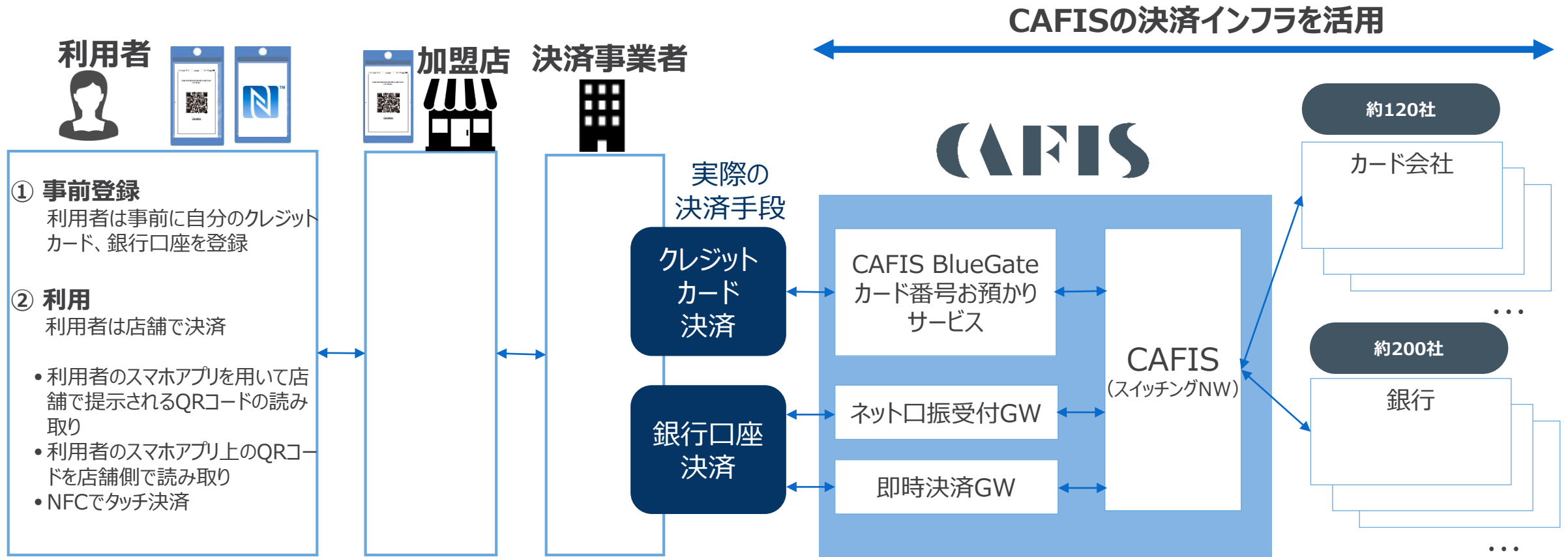
3 Party Model



注) CIF : Customer Information Fileの略。金融機関の顧客情報管理ファイル。

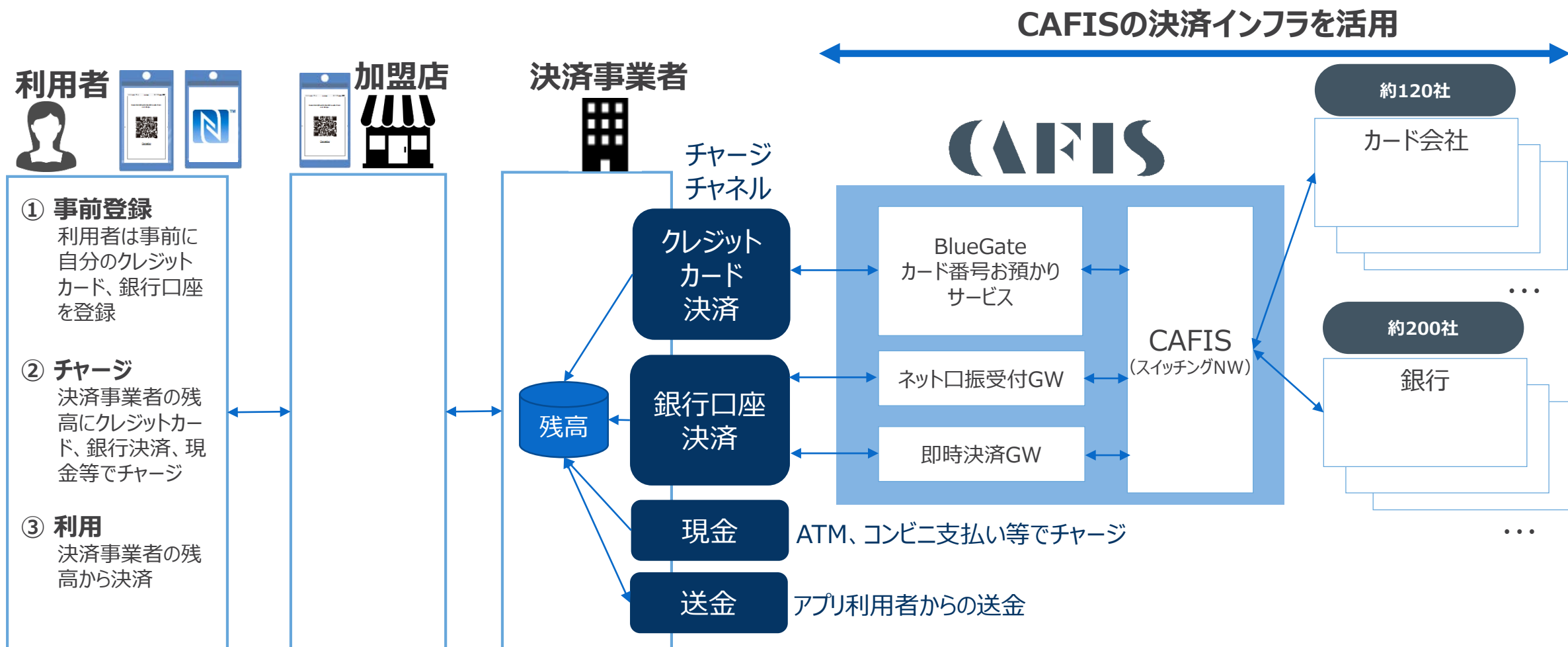
新たな決済手段におけるCAFISの提供サービス（随時決済型）

- QRコード/NFCはあくまで決済インタフェースであり、実際の決済手段がクレジットカード決済、銀行決済の場合は、CAFISの決済インフラ（ほぼ全てのカード会社、銀行と接続済み）を活用することが可能です。



新たな決済手段におけるCAFISの提供サービス（チャージ型）

- 決済事業者上の残高へのチャージチャネルとしてクレジットカード決済、銀行口座決済を使う場合はCAFISの決済インフラ（ほぼ全てのカード会社、銀行と接続済み）を活用することが可能です。



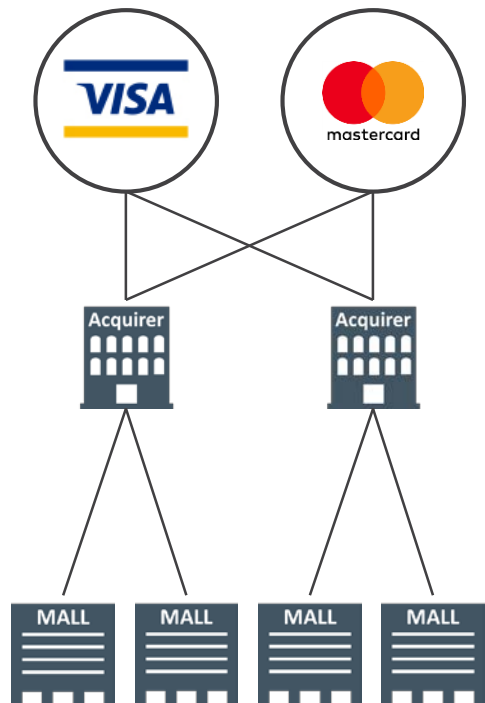
②加盟店サイドの変化

決済代行ニーズの増大

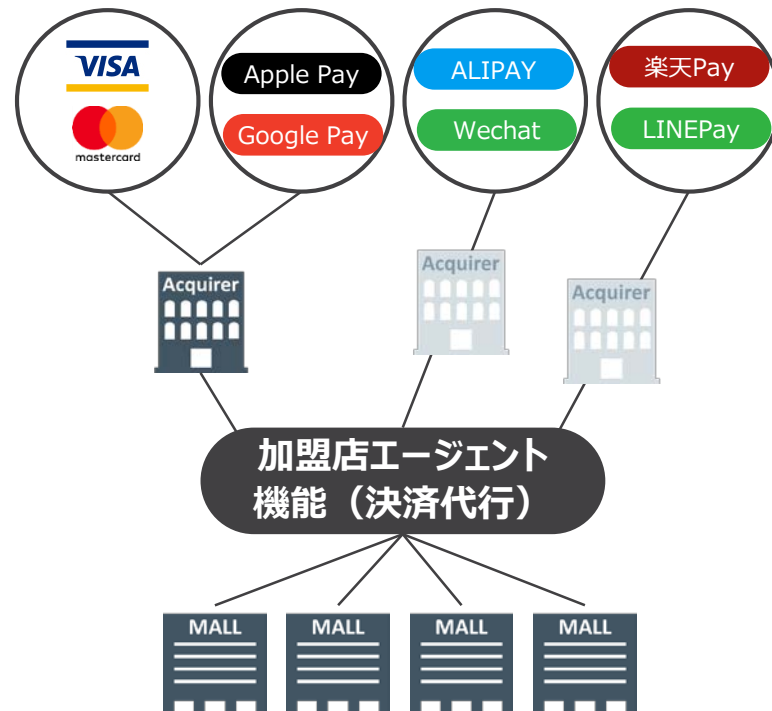
決済代行ニーズの増大

- 従来はアクワイヤラを起点として加盟店が集約され、加盟店管理の付加価値はアクワイヤラに集中していました。
- ECでは、クレジット決済、コンビニ決済を始めとした多様な決済手段に対応することが求められますが、複数のアクワイヤラとの調整、セキュリティを考慮したシステムの開発等には大きな手間がかかります。
- それらを代行する役割を決済代行事業者（PSP）が担っていますが、近年はO2Oニーズの拡大、タブレットPOSなどの拡大により加盟店の手間がさらに増えており、決済代行ニーズ（加盟店エージェント機能）が増大しています。

従来



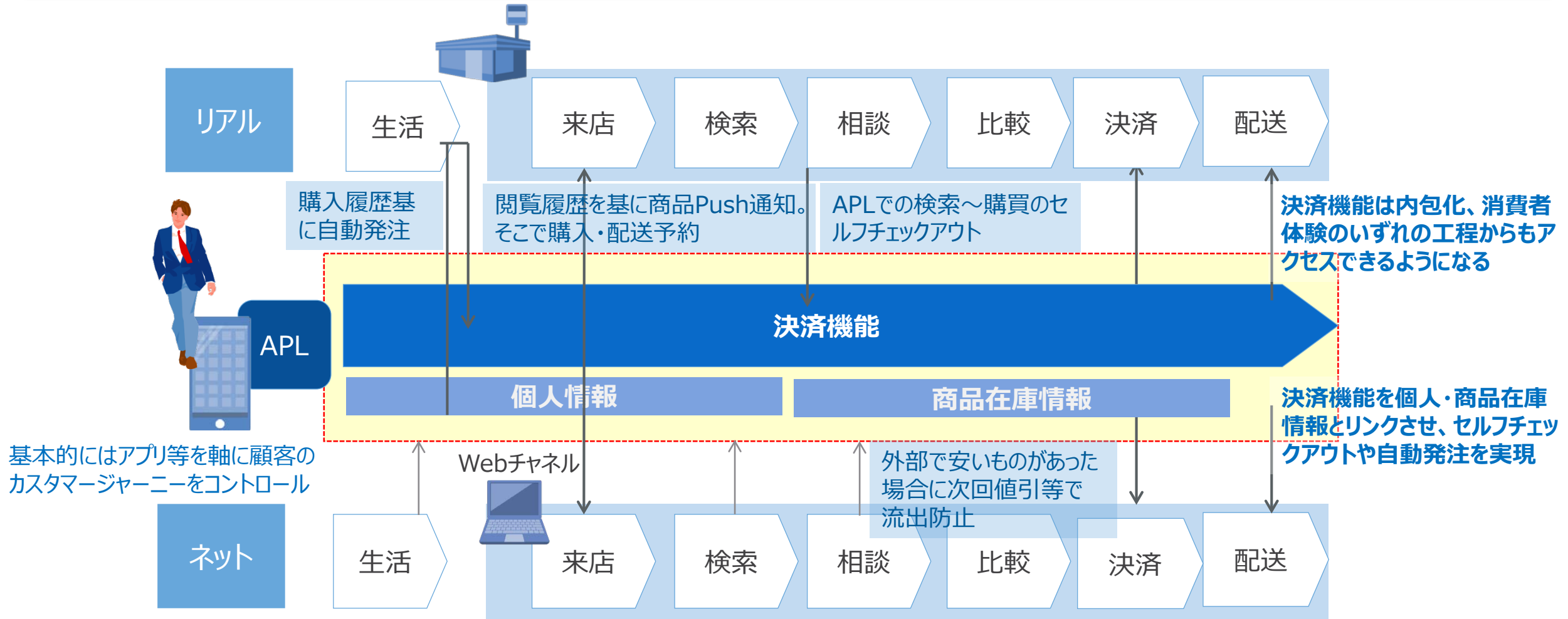
最近のトレンド



購買体験のデジタル化

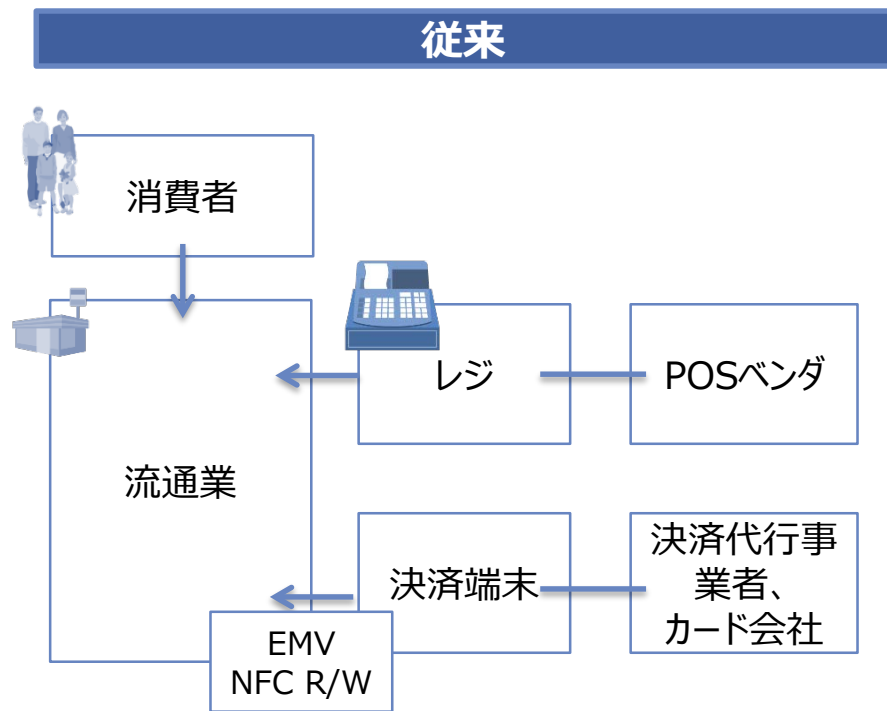
購買体験のデジタル化

- スマートフォンが普及し、消費者の購買体験全体のデジタル化が具体化されてきています。
- Digital Marketingのトレンドにおいて求められる決済サービスは、消費者の購買体験のどの過程においても決済にシームレスにアクセスし、購買行為ができるような形であると想定されます。

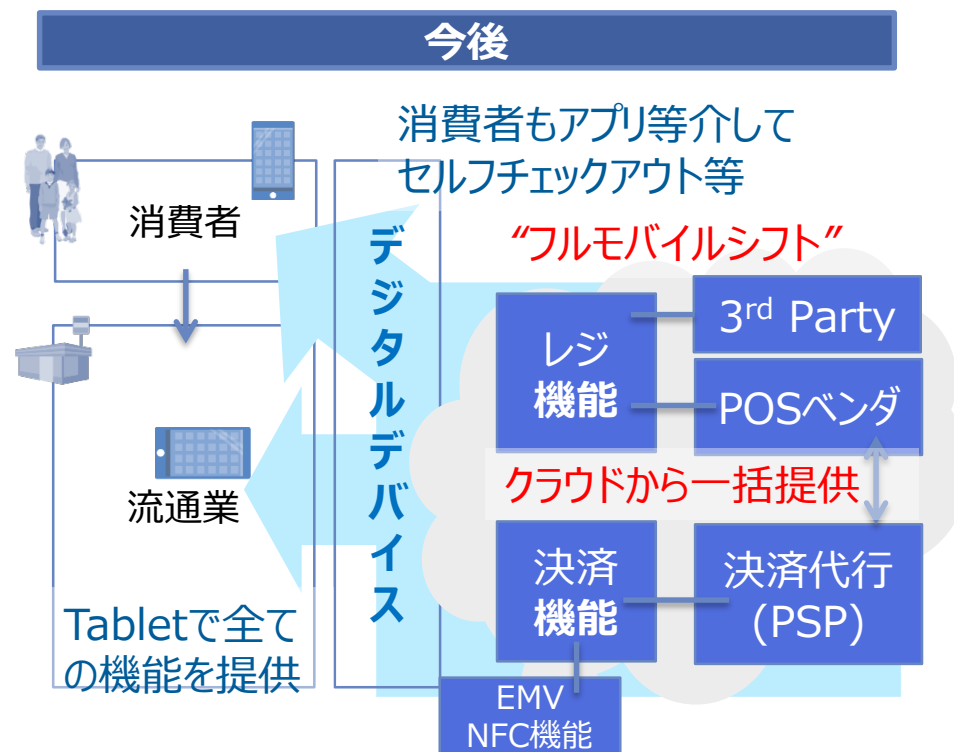


加盟店接点の構成の変化

- 従来レジはPOSベンダが提供していましたが、ハードウェアで処理されている機能が全てソフトウェアにシフトしていく事により、従来のレジ機能や決済機能がフルモバイル化し、加盟店への接点が変わっていくと予測されます。



- 従来レジはPOSベンダ、決済端末等はカード会社や決済代行事業者(PSP)等が提供

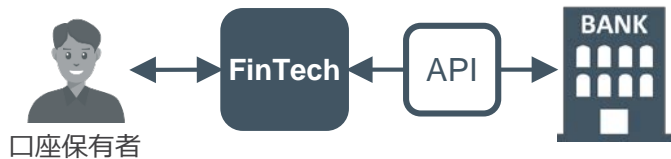



- 従来のPOSベンダと決済プレーヤの垣根が崩壊
- 加盟店接点はTablet等にレジ機能と決済機能をTabletで包み、加盟店のDigital接点に提供
- 消費者接点もアプリ等を開始、セルフチェックアウトサービス等を提供

③金融機関サイドの変化

金融機関のOpen-API化の傾向

- Open-APIは、外部企業とのセキュアなデータ連携を可能とする技術です。
- FinTech企業等が、銀行等のシステムを共通基盤（プラットフォーム）として活用し、多様なサービスを開発・提供し、金融業界のオープンイノベーションを実現していくことが期待されています。
- 一方CAFISは、金融機関に対して統一したI/Fを準備し、小売店等に対して、マルチバンク対応サービスを提供してきました。

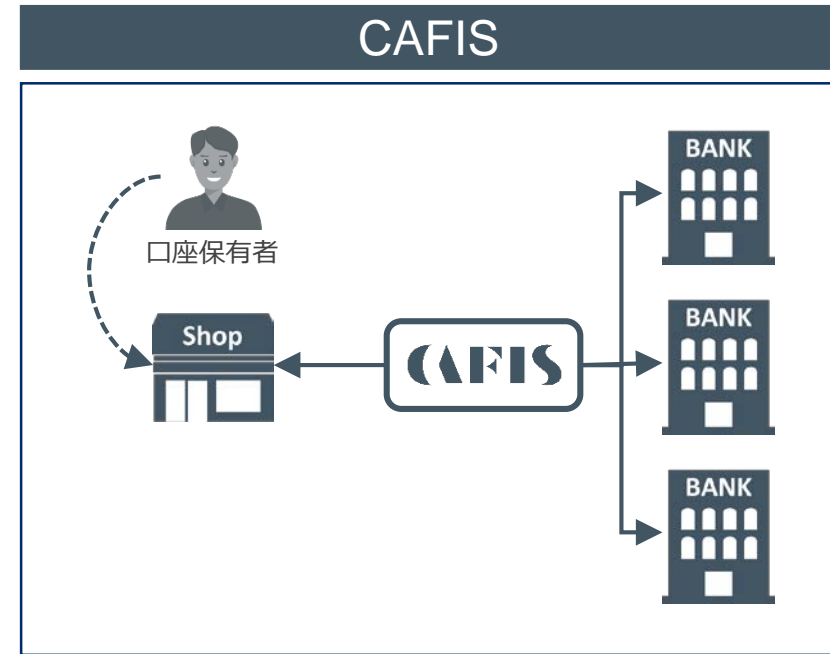
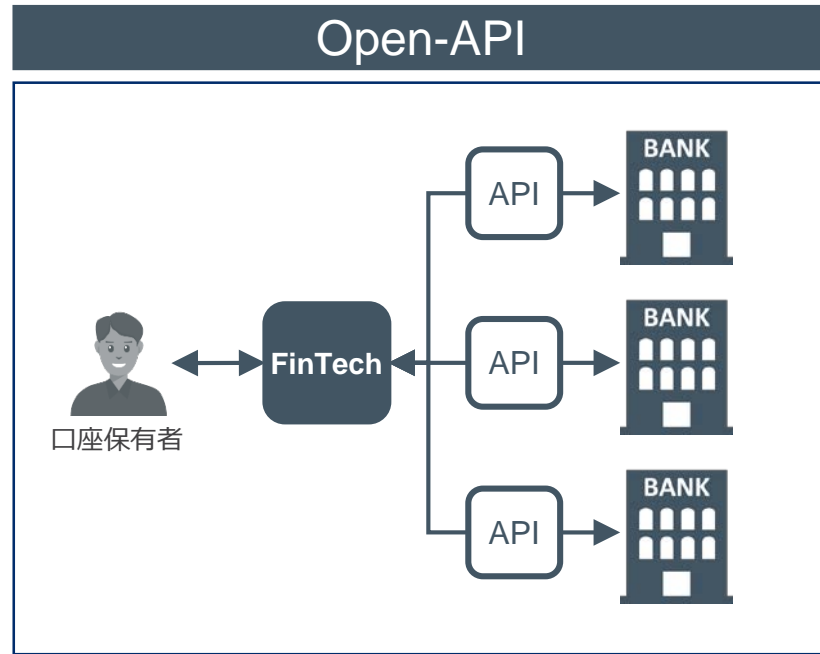
		Open-API		CAFIS
①	サービス構成	直列モデル 	⇔	三角モデル 
②	取引の実施者	口座保有者（個人、企業）	⇔	お店（銀行と契約がある加盟店）
③	対象業務	更新系：振込 参照系：残高照会／明細照会	⇔	ショッピング／口座振替／ ATM入出金 など
④	特徴	銀行が口座保有者に優れたサービスを提 要することを指向。 ⇒個別銀行サービス	⇔	加盟店に利便性の高いサービス提供することを 指向。 ⇒マルチバンクサービス

Open-API化に対するCAFISの優位性

- APIで店舗支払等のマルチバンクサービスが必要となる場合、ダイレクトに個々の金融機関と接続することが必要となりますが、単に接続するだけでなく、ビジネスルールの整理やライアビリティの整理等の考慮も必要となります。

＜マルチバンクサービスとなるケース＞

概念図



インタフェース

銀行個別となる場合あり。

CAFIS I/Fにてルール化されている。

ライアビリティ(責任分解)

銀行個別に整理が必要。

決済ブランドルールなどで決められている。

業務オペレーション

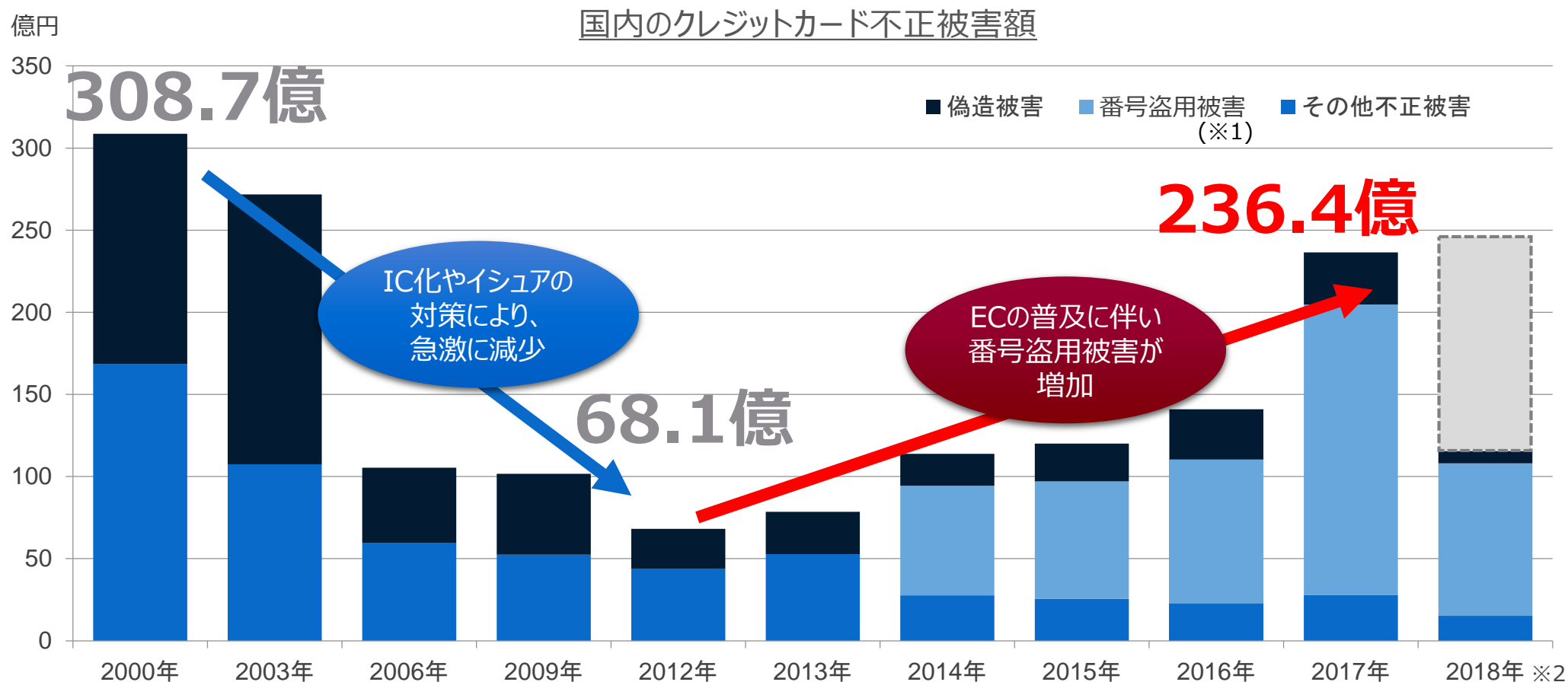
銀行個別に整備が必要。

既に売上データ作成/集計還元機能、セキュリティ機能やチャージバックなどの成熟した処理がある。

④セキュリティ対策の高度化

クレジット取引の不正利用増加

- ECの拡大やキャッシュレス化に伴いクレジットカード取引が増えているが、同時に、セキュリティ対策が不十分な加盟店等を狙った不正アクセスにより、カード情報の漏えいが拡大しています。これに伴い、窃取したカード情報を使って、偽造カードや本人になりすました不正利用による被害は年々増加しています。



出典：日本クレジット協会

※1 「番号盗用被害」は2014年統計より新設。それ以前の「番号盗用被害」数値は「その他不正被害」に含まれる。
 ※2 2018年は1月～6月の6ヶ月間の統計データ（115.4億円）とそれから推測される見込み値を記載。

不正利用に対する国や国際ブランドの動き

- こうした不正利用の増加は業界における喫緊の課題となっており、その対策を講じるために国や国際ブランドからイシュー・アクワイアラに対して多岐にわたる指示が出ています。

国の動き

クレジット取引セキュリティ対策協議会により、クレジット取引におけるセキュリティ対策の実行計画が掲げられ、一部が法令により義務化されている。

7. 「実行計画」における対策の3本柱

(1) クレジットカード情報保護対策

◇カード情報を盗らせない

- 加盟店におけるカード情報の「非保持化」
- カード情報を保持する事業者のPCI DSS準拠

(2) クレジットカード偽造防止による不正利用対策

◇偽造カードを使わせない

- クレジットカードの「100%IC化」の実現
- 決済端末の「100%IC対応」の実現

(3) 非対面取引におけるクレジットカードの不正利用対策

◇なりすましをさせない

- リスクに応じた多面的・重層的な不正利用対策の導入

国際ブランドの動き

国際ブランドが主導する業界団体(EMVCo.(※1)、PCISSC(※2))により、対面・非対面での様々なセキュリティ対策が継続的に求められている。

●対面決済のセキュリティ強化

- ICカード通信仕様であるEMV仕様の継続的な改訂
- PCI DSS(※3)、PCI CTS(※4)などさまざまなセキュリティ基準の策定と改訂

●非対面でのセキュリティ強化

- クレジットカードの非対面決済における本人認証プロトコル「3D-Secure」Ver2.0の提示

※1) EMV Co. : クレジットカード決済に係わるグローバルな共通仕様を策定、技術認定をおこなう団体であり、国際ブランド6社 (Visa、Mastercard、JCB、American Express、Discover、銀聯 (UnionPay)) をボードメンバーとして構成されている。NTTデータは、EMVCo.のテクニカルアソシエイトメンバーとして、3-D Secure2.0の仕様策定、開発、導入計画に携わっている。

※2) PCI SSC : PCIセキュリティ標準協議会の略。American Express、Discover、JCB、MasterCard、Visaによって構成されている、カード決済のセキュリティ標準であるPCI DSSを策定し運用している団体のこと。

※3) PCI DSS : PCI SSCが定めるクレジット業界におけるグローバルセキュリティ基準。

※4) PCI CTS : PIN入力を行う端末、ハードウェアに関するセキュリティ基準

出典 : 日本クレジット協会「クレジット取引セキュリティ対策協議会 実行計画 -2018-」

1.5 成長戦略と取り組み事例

CAFISの成長戦略の基本方針

- 加盟店様/金融機関様との接続によるCAFISネットワーク価値（従来のコア事業ドメイン）を維持/向上させるとともに、加盟店様、金融機関様向けへの新たな価値を創出・提供していきます。

- (A) 加盟店向け付加価値サービス拡充
- (B) 加盟店エージェント機能の拡大
- (C) 金融機関の共通ニーズのサービス化

加盟店の状況

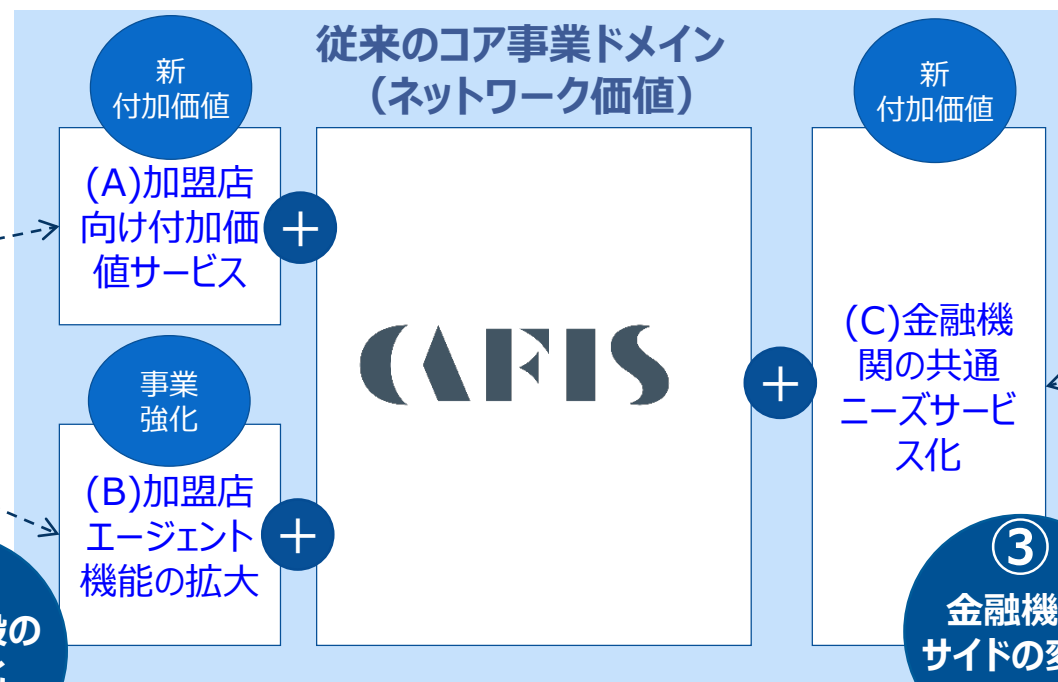


- 消費者の購買体験のデジタル化とペイメントは密接に関連。外部からの送客も必要。
- 決済手段の多様化、技術追従（カード情報非保持化のセキュリティ対応等）による業務負荷が課題。

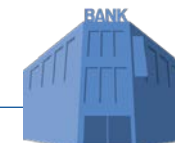
① 加盟店サイドの変化

② 決済手段の多様化

CAFISの成長戦略の方向性



金融機関の状況



- トークナイゼーションや新たな認証機能の対応等の追従が大変
- オンライン関連機能は、各社で機能差が少なく集約が効率的

④ セキュリティ対策の高度化

(A) 加盟店向け付加価値サービス拡充 : 「CAFIS Arch」

- 従来の決済端末は端末内にアプリケーションを実装していたため、新たな決済アプリケーションの追加、削除には保守員派遣やセンドバックが必要でした。
- 「CAFIS Arch」は、決済アプリケーションを「センタ側」に保有するため、センタの作業のみで、すぐに端末側で新しい機能をご利用いただけます。継続的な製品機能強化、デバイス拡充により、加盟店様に高付加価値を提供し、Digital Experienceの実現を支援します。

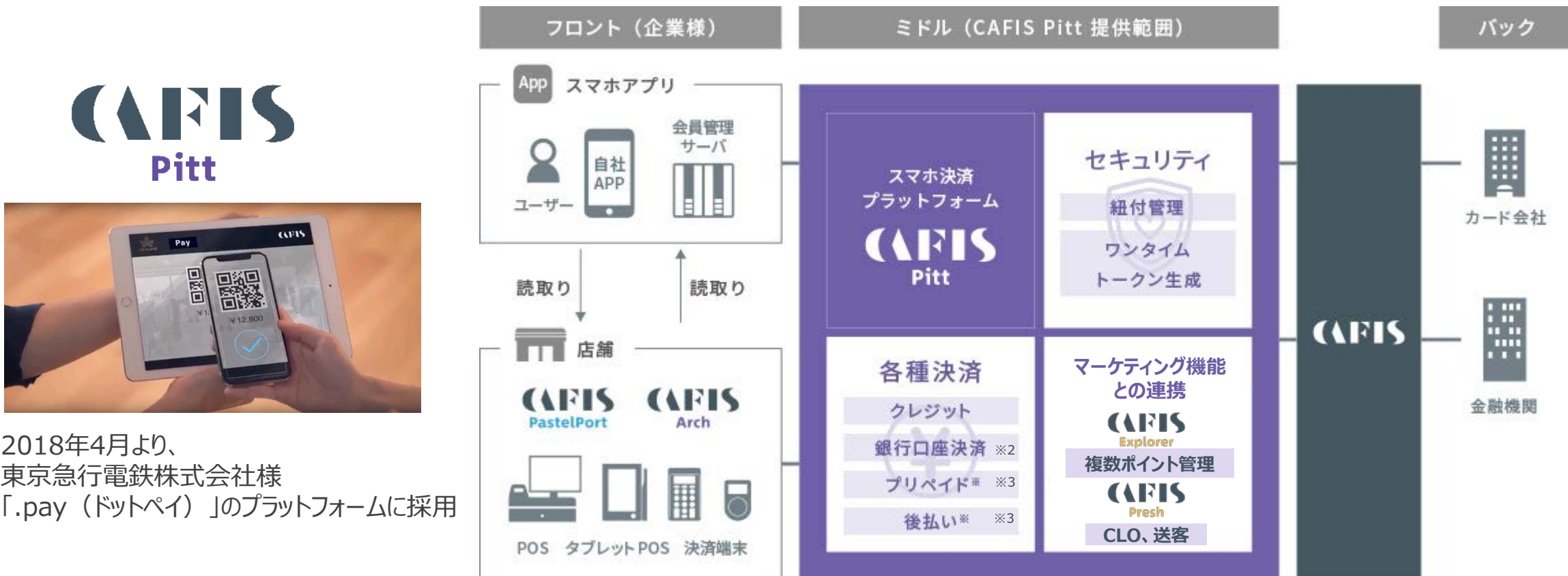


プロダクト
付加価値
強化

- ✓ 新たな決済手段や付加価値サービスを継続的に提供
2018年 : CAFIS Traveler インバウンド向けクーポン読み取り機能対応 (提供中) 、2019年春 : 国内外QRコード決済対応
- ✓ デジタル化と多様なデバイス対応により店舗におけるCustomer ExperienceとEmployee Engagementを両立
2019年初旬以降展開 : スマートデバイス/据置ハイブリッド型端末対応(Castles Technology社製)

(A) 加盟店向け付加価値サービス拡充 : 「CAFIS Pitt」

- 「CAFIS Pitt」は、QRコード/NFC(※1)を利用したスマホ決済を実現するための「決済プラットフォーム」です。
- 加盟店の専用ワレットとして提供することで、加盟店の顧客接点強化・データ活用を実現します。
- さらに、CAFIS Explorer等のマーケティングソリューションや、店舗側プラットフォーム CAFIS Archとの連携によって、顧客の購買体験を向上するとともに囲い込みを強化し、決済機会そのものの創出に貢献します。



2018年4月より、
東京急行電鉄株式会社様
「.pay (ドットペイ)」のプラットフォームに採用

※1)NFCについては今後検討予定。
 ※2)当社即時決済GWを利用した即時決済方式で提供。将来的にはJ-Debit方式での提供も視野に入れる。
 ※3)プリペイド、後払いについては2019年度以降提供予定。

(A) 加盟店向け付加価値サービス拡充：「インバウンド対応とデジタルマーケティング」

- 訪日外国人旅行者の送客から多言語による商品説明、さまざまなインバウンド決済、免税処理、帰国後の越境ECまで、全てをCAFISがご提供します。
- 国内・インバウンド向けそれぞれに、ペイメントと次世代デジタルマーケティングを組み合わせたソリューションを提供します。



行動・消費の見える化／効果的なオファー

訪日外国人の興味・関心の喚起

多言語商品説明
CAFIS Attendant

海外現地キャンペーン
インバウンド送客
CAFIS Traveler
海外現地企業と提携

マルチペイメントを迅速・安全に

クラウド型
キャッシュレス端末
CAFIS Arch

免税書類発行
CAFIS TaxFree
免税書類発行

多通貨決済サービス
CAFIS DCC

消費者のスマートなライフスタイルに働きかけ

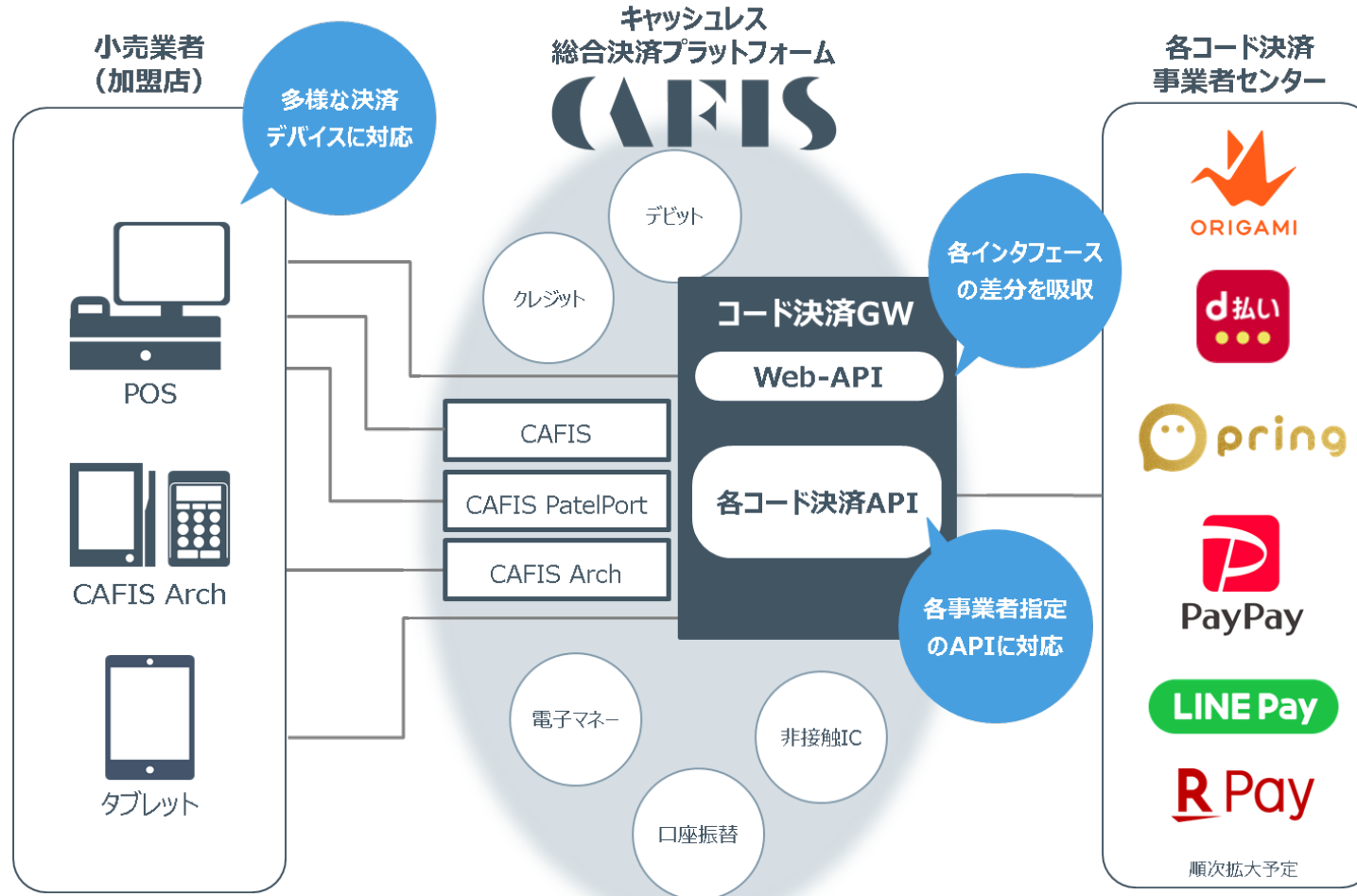
顧客接点強化・データ活用ソリューション

スマホ活用CLO
CAFIS Presh

次世代ポイント・
会員管理ASP
CAFIS Explorer

(B) 加盟店向けエージェント機能の拡大：コード決済GW

- 加盟店様が国内外のコード決済を導入する際、CAFISが提供する「コード決済GW」と接続いただければ、複数のコード決済事業者に一括で接続できるサービスを2019年春より提供する予定です。
- 対応するコード決済事業者は順次拡大し、あらゆる一次元バーコード・QRコード決済に対応する方針です。

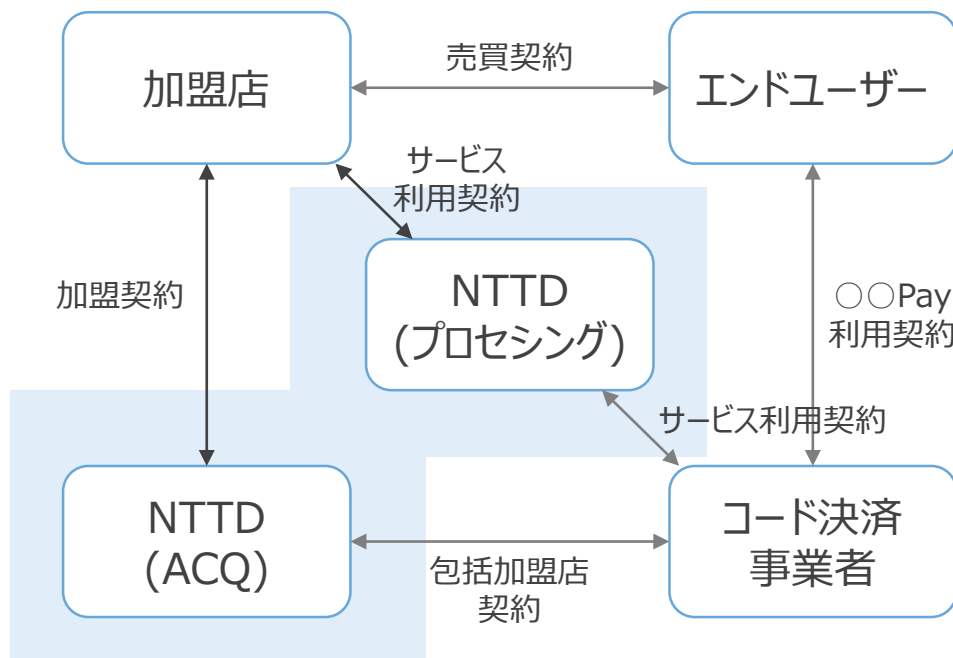


【ご参考】コード決済GW提供スキーム

- コード決済GWサービスは、2つの提供スキームがあります。
- 基本的に、海外のコード決済は「プロセッシング&包括契約」スキーム、国内のコード決済は「プロセッシング」スキームでサービス提供します。（各コード決済事業者の方針に準じます）

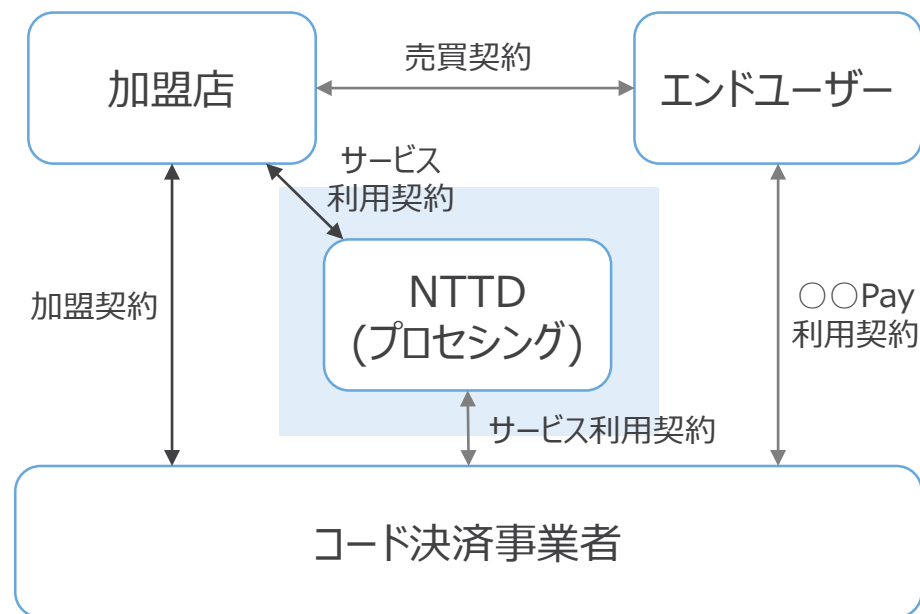
「プロセッシング&包括契約」スキーム

- コード決済事業者との加盟店契約をNTTDが包括契約します。
- コード決済事業者への中継GWを提供します。



「プロセッシング」スキーム

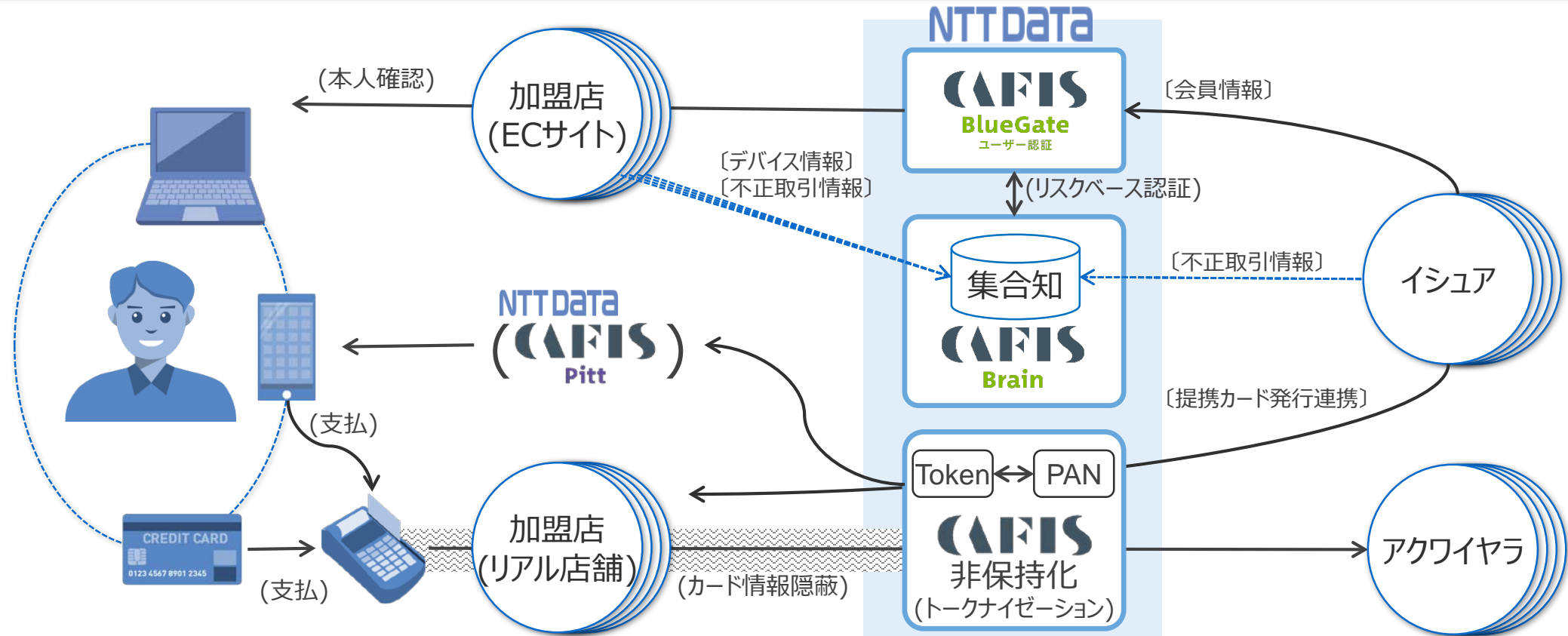
- コード決済事業者への中継GWを提供します。



凡例：NTTDの位置づけ

(C) 金融機関の共通ニーズのサービス化

- クレジット取引セキュリティ対策協議会の実行計画、国際ブランド規制やPCI DSSなど、国内外のセキュリティ規制準拠はクレジット会社の共通課題です。これら要求に応える共同利用型ソリューションを当社が提供することで、クレジット会社の個別負担を軽減しつつ、今後も安全なカード決済環境の実現に努めていきます。



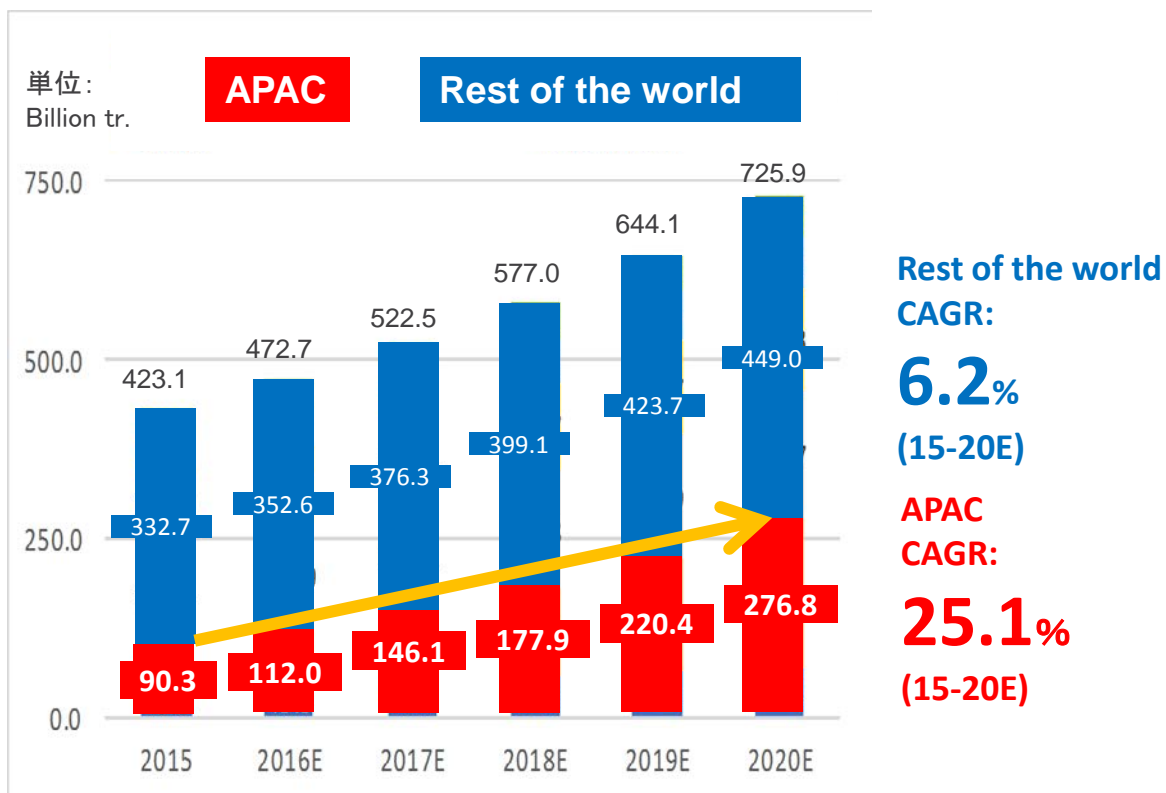
- **BlueGateユーザー認証サービス**は、EC決済時にイシューが直接本人確認を行うことで非対面リスクを軽減する認証ソリューションです。
- **CAFIS Brain**は、EC決済に関わる“なりすまし”不正を、デバイス×ルール×集合知で防止する不正検知プラットフォームです。
- **非保持化**によりカード番号(PAN)を隠蔽したまま決済できることで、アクワイヤラの加盟店に対するPCI DSS対策促進をサポートします。

2. グローバルペイメント事業

グローバルペイメント市場

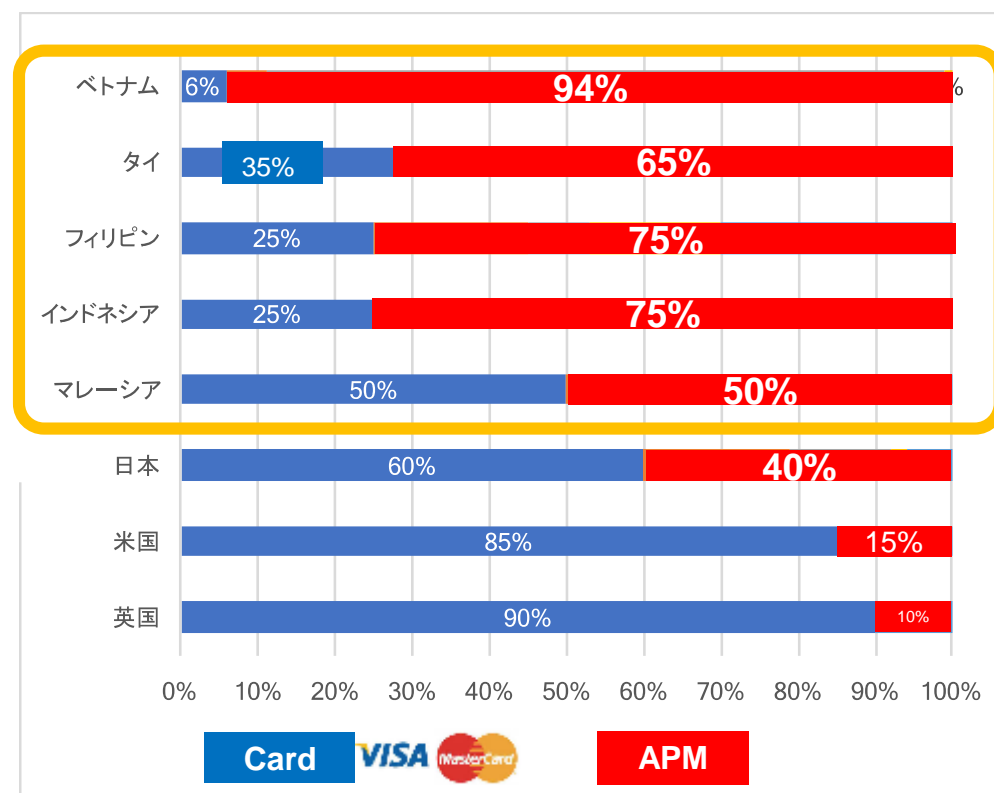
- APAC市場は今後も高成長が続き、2025年までには欧米に匹敵する規模となる見込みです。
 - アジアにおいては、VISA・MasterCard等の普及率は低く、各国現地の多様な決済手段が普及しています。
- ⇒決済市場の増大と多様な決済手段が併存するために、加盟店に対するPSPの存在価値が高まっている国が多くなっています。

非現金決済の取引件数



出典: World Payments Report 2017 by Capgemini

ECにおける決済手段比率



出典: Online Payment Methods around the World, 2014

グローバルペイメント事業拠点

- APAC地域の決済サービス事業者との資本・業務提携を通じて、ペイメント事業を拡大してきました。
- 現在、APACを中心に7カ国に拠点を置いており、2018年11月にはインドにeコマースや小売店舗等に先進的な決済サービスを提供するAtom社をグループ会社として迎え入れることで合意しました。



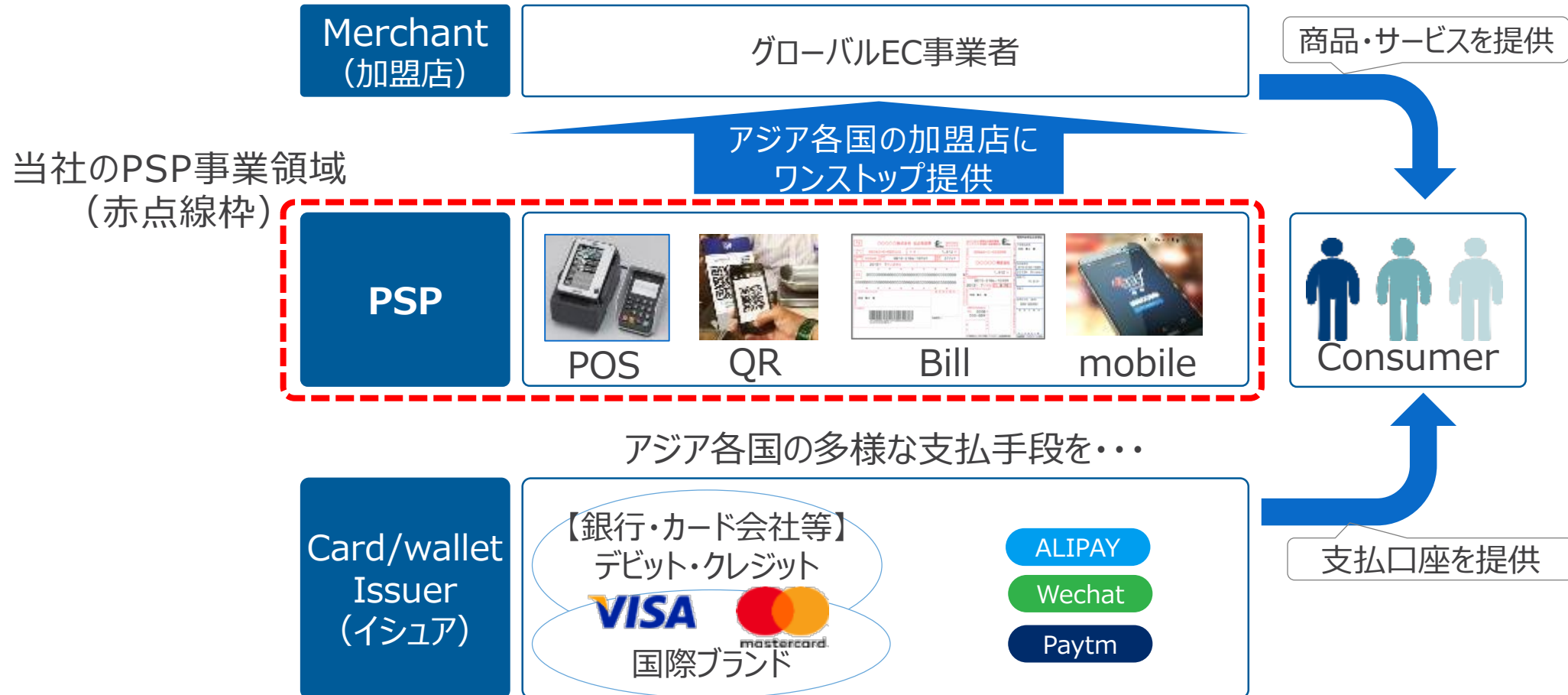
APAC地域のペイメント事業領域

- ローカル決済のきめ細かさ、ASEAN全域のカバーを強みとし、グローバルEC事業者にPSP事業を展開しています。
- NTT DATA Thailandを軸として、共同利用型カードプロセッシング事業を展開しています。

		加盟店チャネル		決済ソリューション（バリューチェーン）				
		リアル	EC	決済端末 mPOS	EC PSP /POS PSP	アクワイヤラ プロセッサ	イシュー プロセッサ	スイッチング ネットワーク
		国毎に有力加盟店を持つ事業者との連携	グローバル/ローカルEC事業者を開拓	リアル/EC加盟店向け双方に対するサービスの提供		NTT DATA Thailandの共同プロセッシングをタイおよび周辺国へ展開		中央銀行や銀行協会等へのアプローチ
ローカル市場	ベトナム	VietUnion		VietUnion (Bill Payment)		NTT DATA Thailand		
	タイ			iPay88				
	マレーシア	iPay88		iPay88				
	フィリピン			iPay88				
	インドネシア ミャンマー			iPay88 (インドネシア)				
	インド	atom		atom				
グローバル市場	中国・香港	NTT DATA China	NTT DATA Hong Kong	NTT DATA China	NTT DATA Hong Kong			
	東南アジア							
	欧米等							

PSP事業方針

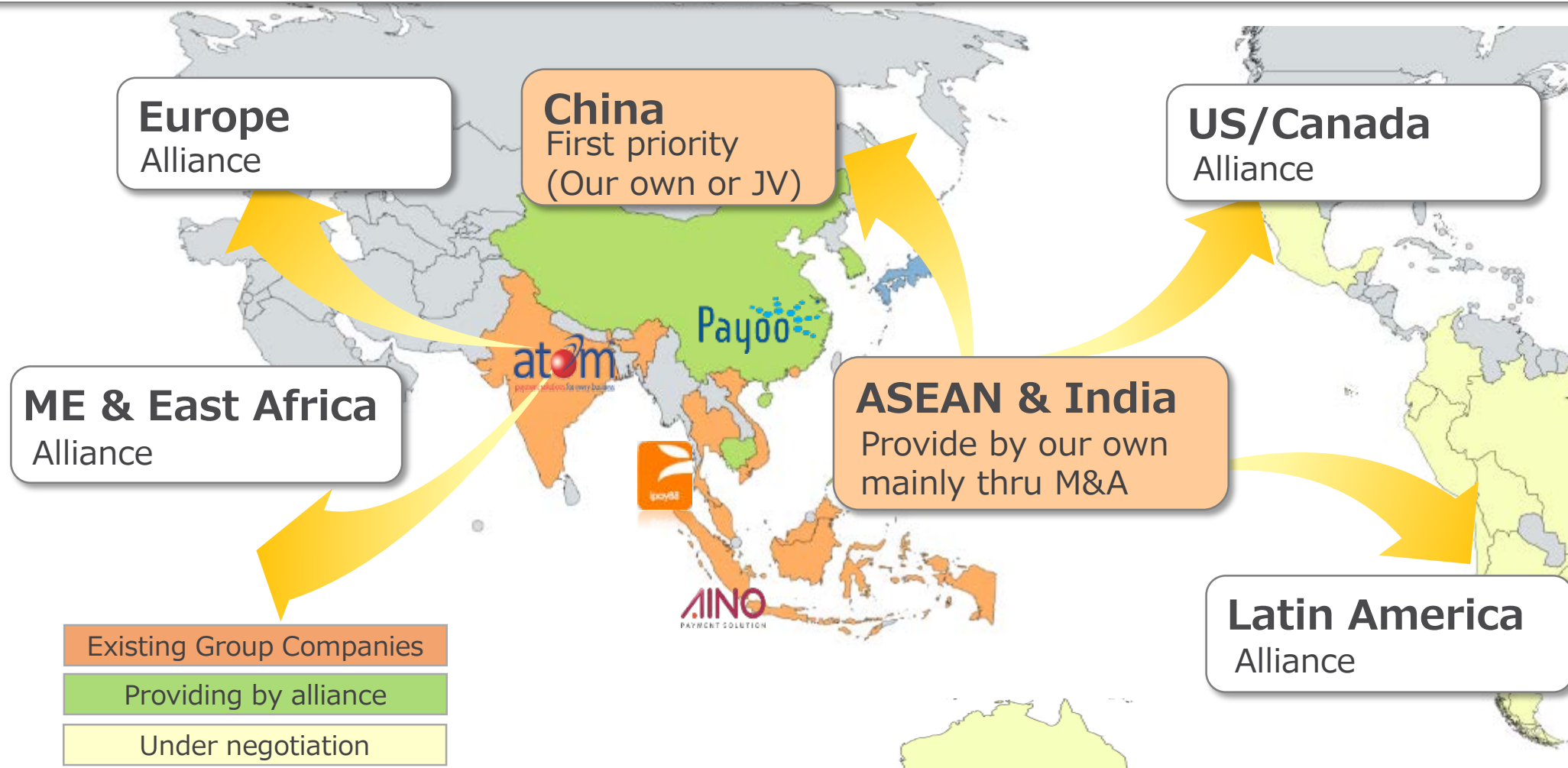
- アジア各国の支払手段を各国の加盟店にワンストップ提供することをコア事業としたPSP事業(Payment Service Provider: 決済代行サービス事業)を手掛けています。
- お客様のグローバルEC展開等に対して、各グループ会社等との連携により、ローカル決済も含めたワンストップサービスをNTTD 香港がワンストップで提供を行っています。



成長戦略と取り組み事例 (グローバルペイメント事業)

エリア展開戦略

- China & APAC : 主にM&Aを通じてペイメント事業を提供しています。
- US/EU/LATAM : 当面アライアンスを通じてペイメント事業を提供していきます。



O2O × Value added (payment + α)

- E-Commerceから実店舗エリアへの拡張（O2O）を行い、シームレスなカスタマージャーニーのための付加価値ソリューションを展開していきます。





NTT DATA

Trusted Global Innovator